

第2編 市民アンケート

1. 市民アンケート調査の概要

移動等円滑化促進方針の策定にあたり、障がい者・高齢者・子育て世代・一般を対象とした市民アンケート調査を実施した。アンケート結果により、個人属性や外出の頻度、目的地、移動手段などの交通行動、そして実際に駅周辺で移動する際に困ったことなどについて把握した。

表 市民アンケート調査の概要

	合計	障がい者アンケート	高齢者アンケート	子育て世代アンケート	一般アンケート
対象者	—	障害者等手帳保持者※1	65歳以上	5歳以下の子どもを持つ世帯※1	左記以外※1
配布数※2	4,600通	1,150通	1,150通	1,150通	1,150通
回収率	1,862通 (40.5%)	415通 (36.1%)	567通 (49.3%)	484通 (42.1%)	396通 (34.4%)
配布 返信期間	2019年9月1日～2019年9月14日 ※地域によって配布日時異なる場合がある				
主な設問	普段の外出（過去1年程度）について				
	今後の外出意向について				
	バリアフリーのまちづくりに向けた意向について				
	市が実施しているバリアフリーに関する取り組みについて				
	回答者自身について				

※1：いずれも16歳以上の市民が対象

※2：住所不明・不在により返信されたものを含む

1-1. 市民アンケート

アンケート結果全体について、以下の表にまとめた。各項目については、次ページ以降に整理した。

表 市民アンケートのまとめ

	項目	まとめ
市民アンケート	外出の頻度と主な外出先	<ul style="list-style-type: none"> 外出の頻度はいずれも高く、週1日以上外出する人が大半を占めており、主な外出先の最寄り駅は「伊勢市駅」「宇治山田駅」周辺が多くなっているが、駅周辺以外の場所の利用も多い。
	主な交通手段	<ul style="list-style-type: none"> 自動車による移動が主な交通手段ではあるが、徒歩や自転車等による移動も多い。鉄道の主な乗降駅は「伊勢市駅」「宇治山田駅」「五十鈴川駅」など市内の主要駅が多い。
	主な外出の目的	<ul style="list-style-type: none"> 主な外出の目的としては、買い物や通院、公共機関や銀行、郵便局などへ外出することが多くなっている。障がい者と高齢者は通院のために外出する人の割合が全体の5割強と高く、子育て世代は、上記に加えて子育て施設への外出が多い。
	移動する際に不便だと感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> 移動をする際に不便だと感じたことについて、「通路がせまい」「凸凹や段差がある」「ベンチ等の休憩施設が少ない」が共通して多く、加えて障がい者と子育て世代からは「バス停やタクシー乗り場・駐車場まで通路に屋根がない」が多い。
	外出時に手助けが必要だと感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> 外出時に手助けが必要だと感じたことについて、障がい者、高齢者は「見た目では分からない障がいを理解してほしい」が最も多く、「乗り物などで席を譲ってほしい」「移動で困っているときに声をかけてほしい」「障がい衝動からくる行動を見守ってほしい」などが多くなっている。一方で高齢者については、上記に加えて「手助けが必要だと感じたことはない」も多い。子育て世代については、「乳幼児を連れている際には配慮してほしい」が突出して多くなっている。
	バリアフリーに関する行動	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリーに関する行動（一般向けアンケートのみの質問項目）について、「扉を開けるのを手伝う」「乗り物などで席を譲る」「エレベーターを譲る」が多くなっている。
	バリアフリーのまちづくりに向けて必要だと思うこと	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリーのまちづくりに向けて必要だと思うこととして、「バリアフリーへの教育や意識向上」「自転車利用のマナー向上」「店舗等の意識向上」「職員等の対応スキルの向上」「情報提供」が共通して多くなっている。加えて、高齢者は「地域での声掛け運動」、子育て世代は「交流の機会をつくる」も多くなっている。
	市が実施しているバリアフリーに関する取り組みの認知度	<ul style="list-style-type: none"> 市が実施しているバリアフリーに関する取り組みの認知度としては、いずれも約半数が質問にある4つの取り組みのうち少なくとも一つは知っていると回答しており、中でも伊勢おもてなしヘルパーと障がい者サポーター制度は知っているとの回答が比較的多くなっている。

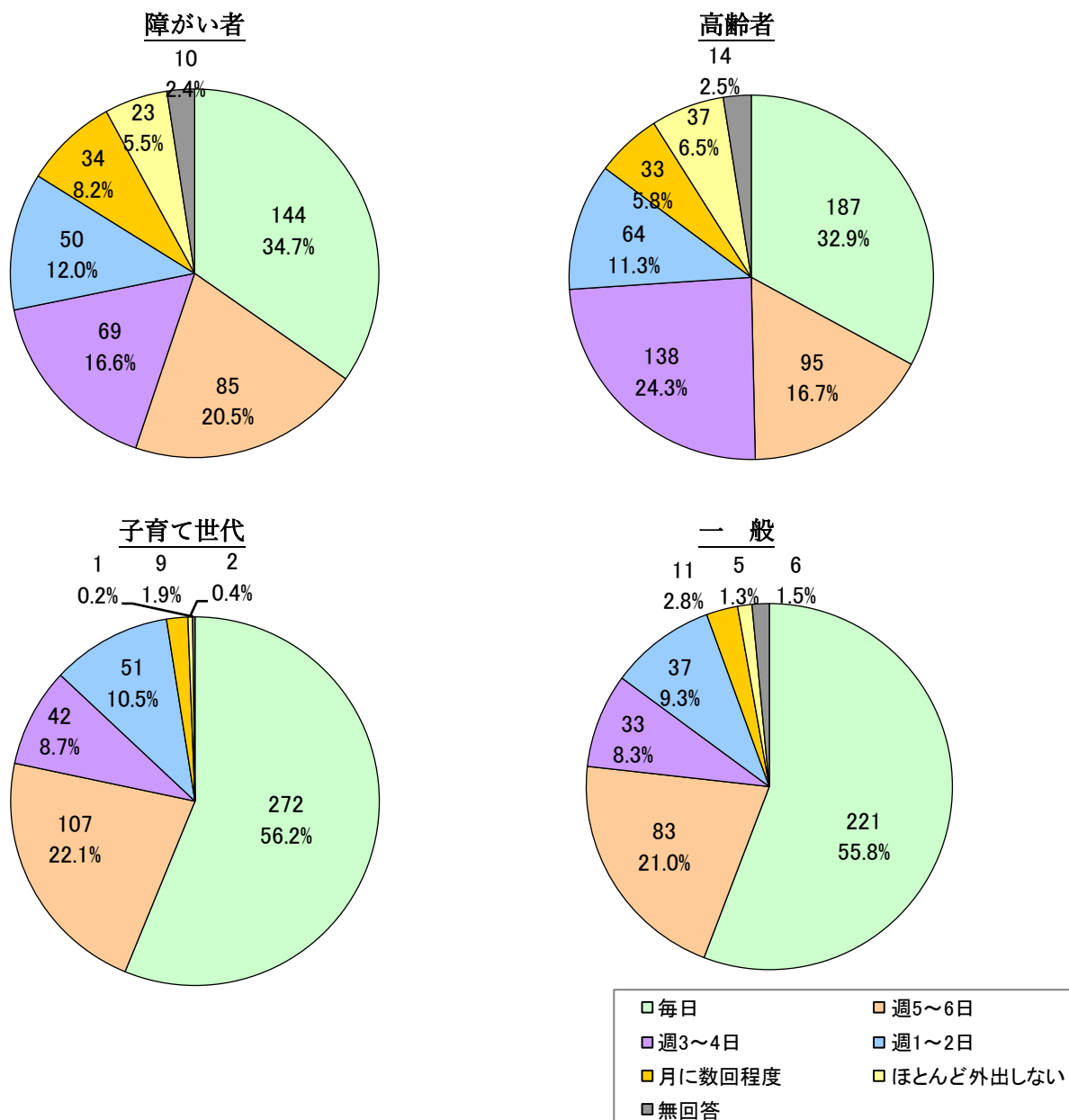
2. 市民アンケート結果

2-1. 普段の外出（過去1年程度）

問 外出の頻度についてお聞きします。（あてはまる番号1つだけ○）

外出頻度は、「毎日」が障がい者の約35%、高齢者の約33%と最も多くなっている。週に1日以上外出する割合は、障がい者は全体の約84%、高齢者は全体の約85%を占めている。

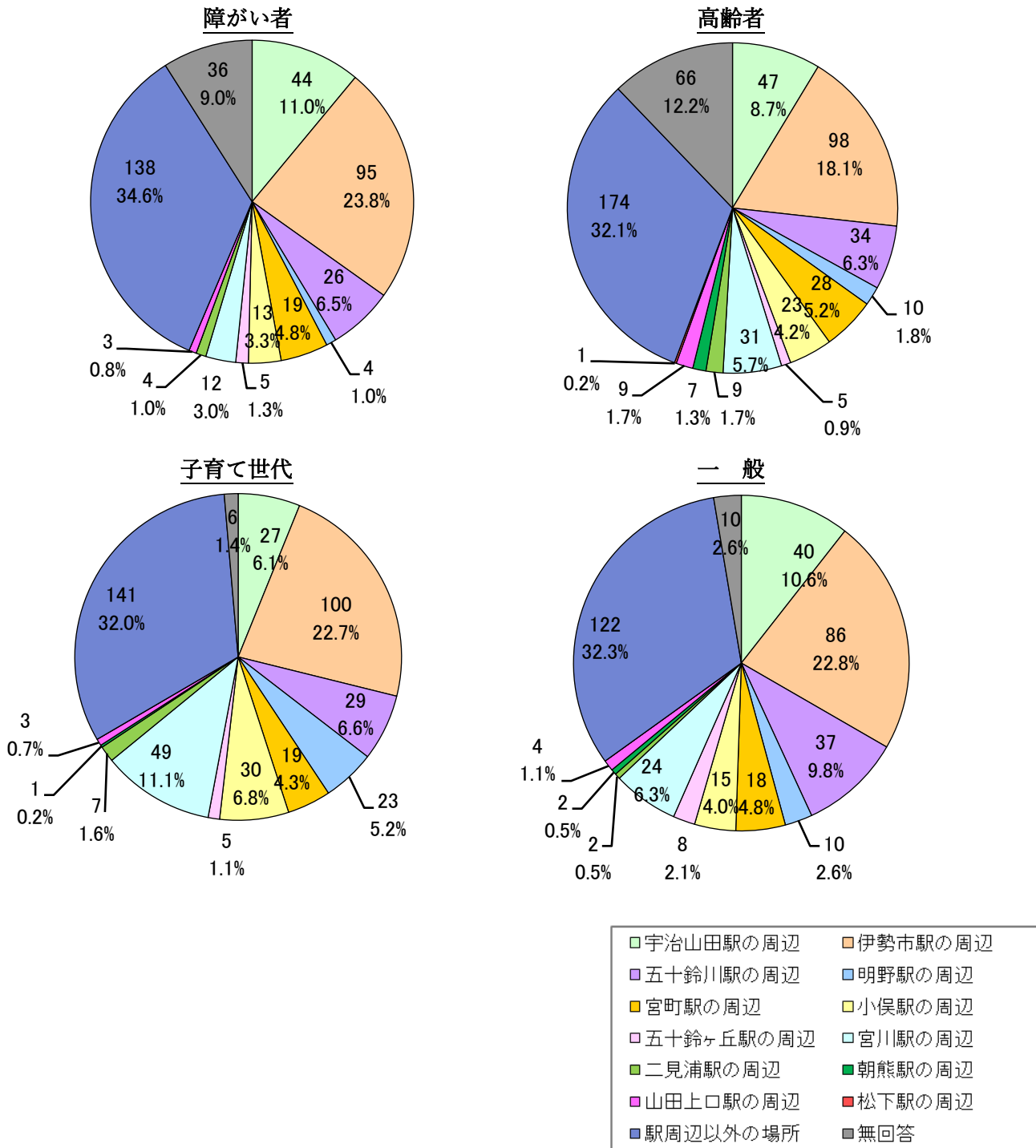
子育て世代および一般については、「毎日」がそれぞれ約56%と最も多く、週に1日以上外出する割合は、子育て世代は全体の約98%、一般は全体の約94%を占め、障がい者や高齢者と比較しても外出頻度が多くなっている。



(1) 駅周辺の地域まで移動する際の行動についてお伺いします。

問 あなたが外出する“市内”の行き先についてお聞きします。(あてはまる番号1つだけ○)

よく外出する市内の行き先として、共通して「駅周辺以外の場所」を除くと「伊勢市駅の周辺」が最も多く、高齢者は全体の約18%、それ以外は全体の約23~24%となっている。「伊勢市駅の周辺」に次いで多いのは、共通して「宇治山田駅の周辺」「五十鈴川駅の周辺」となっている。



問 あなたが自宅から前問で答えた地域まで移動する際の移動手段についてお聞きします。(あてはまる番号すべてに○)

よく利用する地域まで移動する際の主な移動手段としては、共通して「自動車(自分で運転)」「自動車(家族などが運転)」が多くなっており、鉄道やバスといった公共交通の利用は少ない傾向にある。

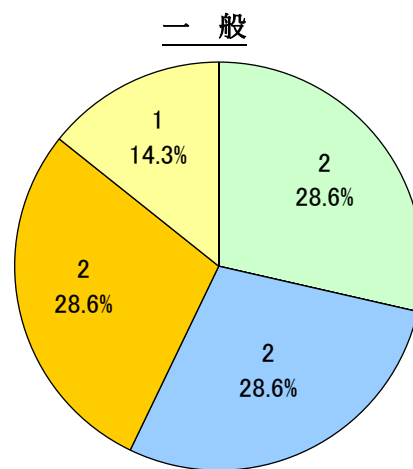
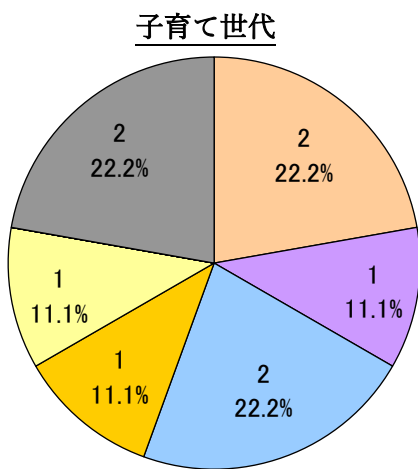
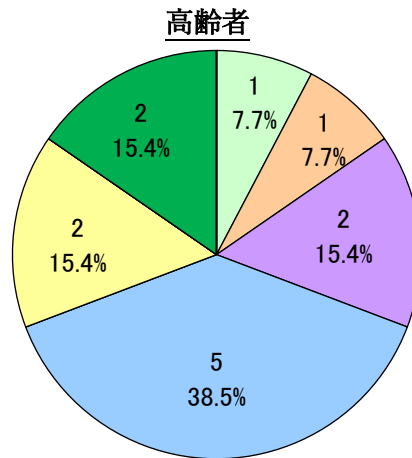
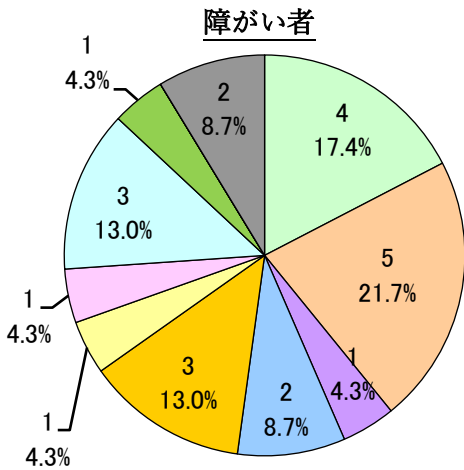
また、障がい者や高齢者、一般については、「徒歩」や「自転車」による移動もそれぞれ、全体の約17～23%程度見られるが、子育て世代はこれらの移動手段について他と比較して少なくなっており、「自動車(自分で運転)」「自動車(家族などが運転)」が多くなっている。

選択肢	属性	件数	0%	20%	40%	60%	80%	100%
1. 徒歩	障がい者	97	23.4%					
	高齢者	132	23.2%					
	子育て世代	74	15.3%					
	一般	75	18.9%					
2. 徒歩(+歩行支援具)	障がい者	10	2.4%					
	高齢者	23	4.0%					
	子育て世代	55	11.4%					
	一般							
3. 自転車	障がい者	71	17.1%					
	高齢者	126	22.2%					
	子育て世代	43	8.9%					
	一般	69	17.4%					
4. 車いす (電動車いす含む)	障がい者	12	2.9%					
	高齢者	4	0.7%					
	子育て世代	0	0.0%					
	一般							
5. バス	障がい者	59	14.2%					
	高齢者	60	10.6%					
	子育て世代	11	2.3%					
	一般	17	4.3%					
6. タクシー	障がい者	32	7.7%					
	高齢者	29	5.1%					
	子育て世代	0	0.0%					
	一般	6	1.5%					
7. 自動車(自分で運転)	障がい者	135	32.5%					
	高齢者	291	51.2%					
	子育て世代	391	80.8%					
	一般	294	74.2%					
8. 自動車(家族などが運転)	障がい者	159	38.3%					
	高齢者	131	23.1%					
	子育て世代	173	35.7%					
	一般	88	22.2%					
9. バイク	障がい者	10	2.4%					
	高齢者	44	7.7%					
	子育て世代	0	0.0%					
	一般	14	3.5%					
10. 鉄道	障がい者	26	6.3%					
	高齢者	25	4.4%					
	子育て世代	14	2.9%					
	一般	20	5.1%					
11. その他	障がい者	1	0.2%					
	高齢者	0	0.0%					
	子育て世代	0	0.0%					
	一般							
無回答	障がい者	38	9.2%					
	高齢者	52	9.2%					
	子育て世代	5	1.0%					
	一般	10	2.5%					
回答者数	障がい者	415						
	高齢者	568						
	子育て世代	484						
	一般	396						

問 前問で「10. 鉄道」をお答えした方に鉄道を利用する際の主な乗車駅についてお聞きします。(あてはまる番号1つだけ○)

よく外出する市内の行き先まで鉄道で移動する際の主な乗車駅として、障がい者は「近鉄伊勢市駅」が約 22%と最も多く、次いで「近鉄宇治山田駅」「近鉄宮町駅」「JR 伊勢市駅」が多くなっている。また、近鉄と JR を含めた伊勢市駅全体については約 35%となっている。

高齢者や子育て世代、一般は、サンプル数が少ないが「近鉄明野駅」「近鉄小俣駅」「近鉄伊勢市駅」「近鉄宇治山田駅」「近鉄五十鈴川駅」「近鉄宮町駅」「JR 宮川駅」等が挙げられている。

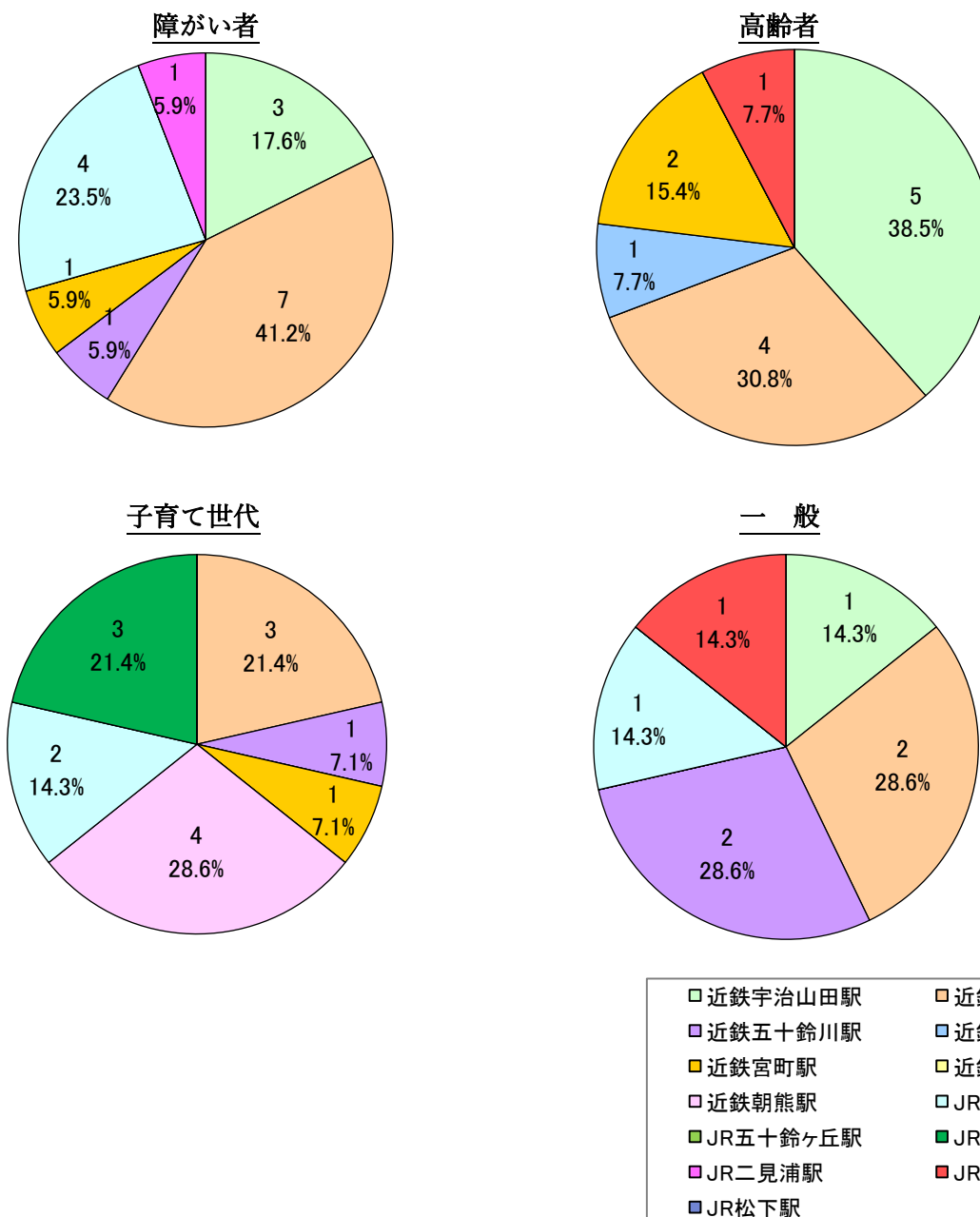


- | | |
|------------|------------|
| □ 近鉄宇治山田駅 | □ 近鉄伊勢市駅 |
| □ 近鉄五十鈴川駅 | □ 近鉄明野駅 |
| □ 近鉄宮町駅 | □ 近鉄小俣駅 |
| □ 近鉄朝熊駅 | □ JR伊勢市駅 |
| ■ JR五十鈴ヶ丘駅 | ■ JR宮川駅 |
| ■ JR二見浦駅 | ■ JR山田上り口駅 |
| ■ JR松下駅 | ■ その他市外の駅 |

問 前々問で「10. 鉄道」をお答えした方に鉄道を利用する際の主な降車駅についてお聞きします。(あてはまる番号1つだけ○)

よく外出する市内の行き先まで鉄道で移動する際の主な降車駅として、障がい者は「近鉄伊勢市駅」が全体の約41%と最も多く、次いで「JR伊勢市駅」が多くなっている。また、近鉄とJRを含めた伊勢市駅全体については約65%となっている。

高齢者や子育て世代、一般についてはサンプル数が少ないが「近鉄伊勢市駅」「近鉄宇治山田駅」「近鉄朝熊駅」「近鉄五十鈴川駅」「近鉄宮町駅」「JR伊勢市駅」「JR宮川駅」等が挙げられている。



(2) 施設を利用する際の行動についてお伺いします。

問 外出の目的とそのときに訪れた施設についてお聞きします。(あてはまる番号すべてに○をつけ、具体的な施設名をお書きください。)

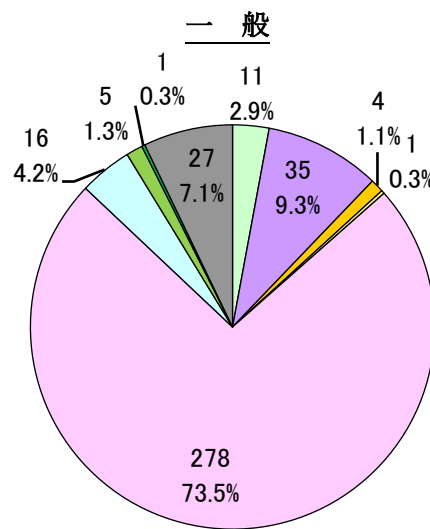
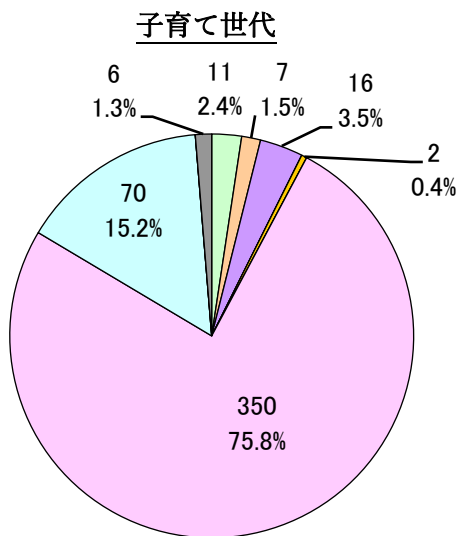
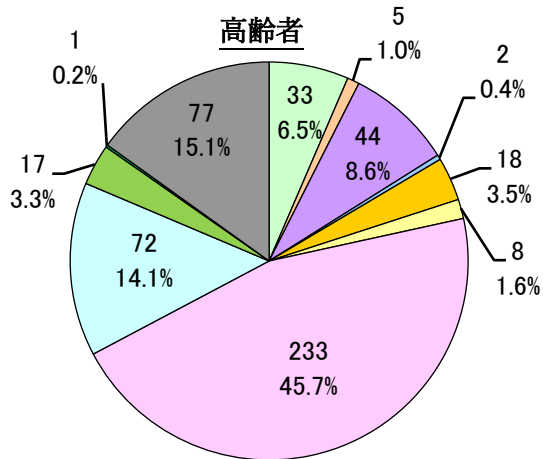
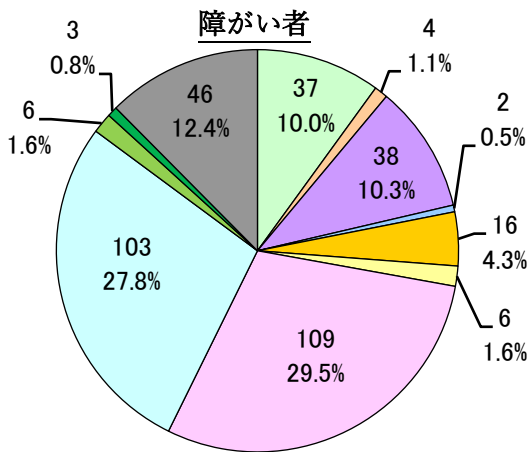
主な外出の目的は、共通して「食料品・日用品の買い物（スーパーやドラッグストアなど）」が約65%～82%と最も多くなっている。次いで、「病院や診療所など医療施設への通院」「銀行や郵便局などへの用事」「非日用品の買い物（ホームセンターや専門店など余暇）」「市役所・支所など公共機関への用事」が多くなっているが、「病院や診療所など医療施設への通院」については、障がい者、高齢者が約55～59%と過半数であるのに対し、子育て世代、一般は約29～34%と割合に差が見られる。

この他に、子育て世代は、「保育園や幼稚園、子育て支援センターなど子育て施設への用事」「図書館や資料館など文化施設への用事」「公園や体育館など運動施設への用事」が多くなっている。

選択肢	属性	件数	0%	20%	40%	60%	80%	100%
1. 市役所・支所など公共機関への用事	障がい者	136	32.8%					
	高齢者	159	28.0%					
	子育て世代	118	24.4%					
	一般	105	26.5%					
2. 老人福祉センターや福祉健康センターなど社会福祉施設への用事	障がい者	43	10.4%					
	高齢者	59	10.4%					
	子育て世代	25	5.2%					
	一般	18	4.5%					
3. 保育園や幼稚園、子育て支援センターなど子育て施設への用事	障がい者	2	0.5%					
	高齢者	15	2.6%					
	子育て世代	350	72.3%					
	一般	37	9.3%					
4. 公民館やコミュニティセンター、いせトピアなど生涯学習施設への用事	障がい者	20	4.8%					
	高齢者	70	12.3%					
	子育て世代	30	6.2%					
	一般	40	10.1%					
5. 病院や診療所など医療施設への通院	障がい者	230	55.4%					
	高齢者	332	58.5%					
	子育て世代	162	33.5%					
	一般	116	29.3%					
6. 食料品・日用品の買い物(スーパーやドラッグストアなど)	障がい者	270	65.1%					
	高齢者	416	73.2%					
	子育て世代	398	82.2%					
	一般	306	77.3%					
7. 非日用品の買い物(ホームセンターや専門店など余暇)	障がい者	140	33.7%					
	高齢者	207	36.4%					
	子育て世代	184	38.0%					
	一般	171	43.2%					
8. 小学校・中学校など教育機関への用事	障がい者	23	5.5%					
	高齢者	16	2.8%					
	子育て世代	73	15.1%					
	一般	51	12.9%					
9. 神社・仏閣などへの参拝	障がい者	57	13.7%					
	高齢者	97	17.1%					
	子育て世代	47	9.7%					
	一般	62	15.7%					
10. 図書館や資料館など文化施設への用事	障がい者	43	10.4%					
	高齢者	74	13.0%					
	子育て世代	145	30.0%					
	一般	70	17.7%					
11. 銀行や郵便局などへの用事	障がい者	133	32.0%					
	高齢者	293	51.6%					
	子育て世代	185	38.2%					
	一般	177	44.7%					
12. 公園や体育館など運動施設への用事	障がい者	22	5.3%					
	高齢者	56	9.9%					
	子育て世代	142	29.3%					
	一般	41	10.4%					
13. その他	障がい者	70	16.9%					
	高齢者	66	11.6%					
	子育て世代	47	9.7%					
	一般	75	18.9%					
無回答	障がい者	40	9.6%					
	高齢者	60	10.6%					
	子育て世代	3	0.6%					
	一般	13	3.3%					
回答者数	障がい者	415						
	高齢者	568						
	子育て世代	484						
	一般	396						

問 前問で回答した施設の内、最もよく利用する施設までの主な移動手段についてお聞きします。鉄道やバスをご利用の方は、駅やバス停などから施設までの主な移動手段についてお答えください。
(あてはまる番号1つだけ○)

よく利用する施設までの主な移動は、共通して「自動車(自分で運転)」が最も多く、障がい者は約30%、高齢者は約46%、子育て世代と一般は約74~76%となっている。次いで、「自動車(家族などが運転)」
「自転車」「徒歩」が多くなっており、バスなどの公共交通の利用は少ない傾向にある。



- | | |
|--------------|----------------|
| ■ 徒歩 | ■ 徒歩(+歩行支援具) |
| ■ 自転車 | ■ 車いす(電動車いす含む) |
| ■ バス | ■ タクシー |
| ■ 自動車(自分で運転) | ■ 自動車(家族などが運転) |
| ■ バイク | ■ その他 |
| ■ 無回答 | |

問 最もよく利用する施設周辺の道路を徒歩や車いす・歩行支援具などで移動する際または施設を利用する際に不便だと思うことについてお聞きします。(あてはまる番号すべてに○。)

最もよく利用する施設周辺の道路を徒歩や車いす・歩行支援具などで移動する際または施設を利用する際に不便だと思うことについて、共通して「通路がせまい」「凸凹や段差がある」「バス停やタクシー乗り場・駐車場までの通路に屋根がない」「ベンチ等の休憩施設が少ない」「多機能トイレがない・少ない」が多くなっている。また、高齢者の約30%は「特に不便はない」と回答している。障がい者および高齢者は、「凸凹や段差がある」が約14~20%と最も多くなっている。子育て世代は、「通路がせまい」が約32%と最も多く、次いで、「凸凹や段差がある」が約22%となっている。

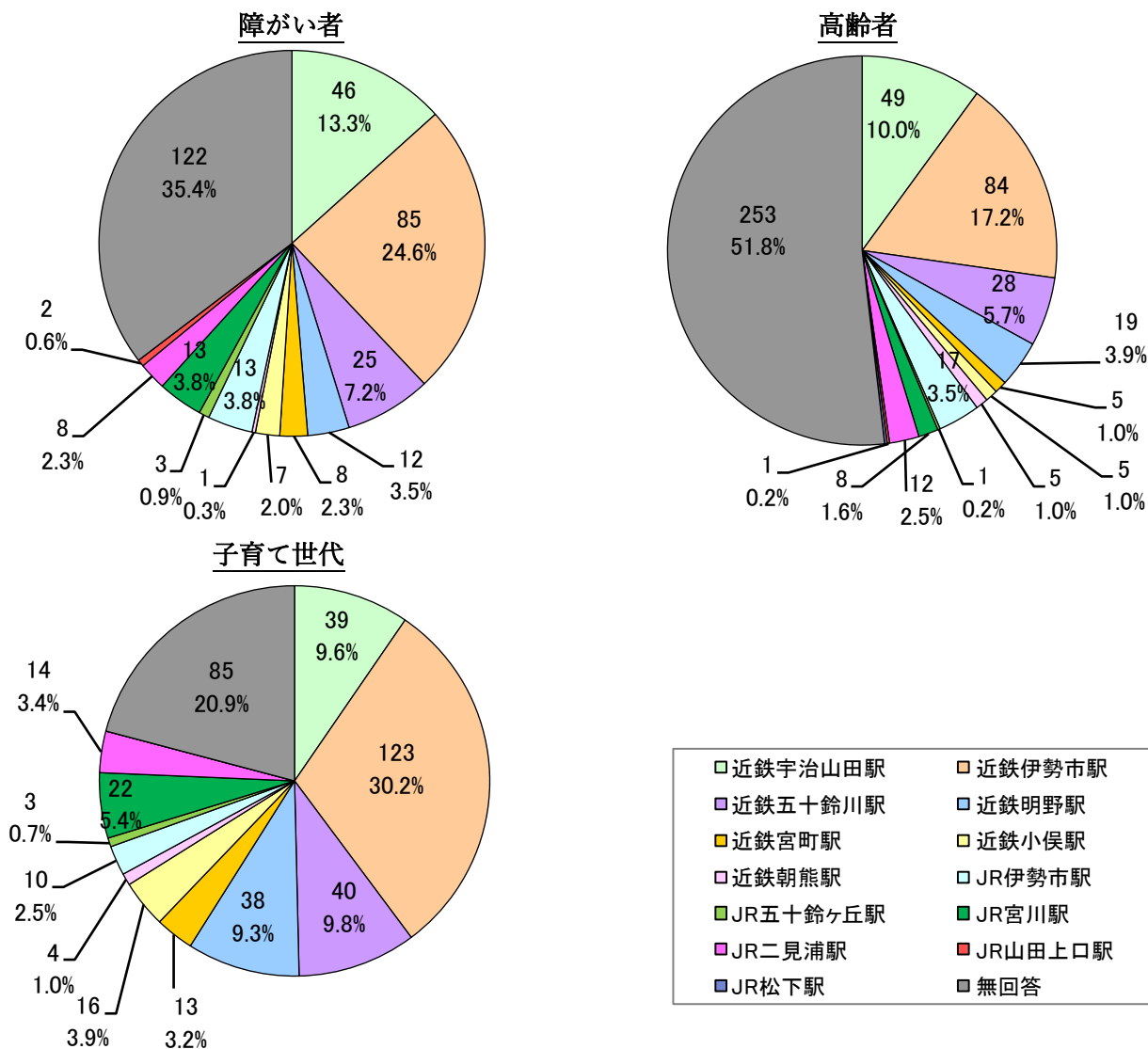
選択肢		属性	件数	0%	10%	20%	30%	40%
1.	通路がせまい	障がい者	58					
		高齢者	67					
		子育て世代	157					
2.	スロープの傾斜がきつい	障がい者	32					
		高齢者	16					
		子育て世代	13					
3.	音声案内がない・少ない	障がい者	12					
		高齢者	8					
		子育て世代	13					
4.	凸凹や段差がある	障がい者	84					
		高齢者	82					
		子育て世代	108					
5.	案内表示がない・見にくい	障がい者	23					
		高齢者	20					
		子育て世代	19					
6.	路面が滑りやすい	障がい者	30					
		高齢者	17					
		子育て世代	11					
7.	多機能トイレがない・少ない	障がい者	58					
		高齢者	38					
		子育て世代	79					
8.	筆談の用意がない	障がい者	7					
		高齢者	3					
		子育て世代	5					
9.	職員や従業員の対応が不適切	障がい者	23					
		高齢者	7					
		子育て世代	8					
10.	ベンチ等の休憩施設が少ない	障がい者	58					
		高齢者	71					
		子育て世代	54					
11.	多機能トイレに必要な機能がない	障がい者	8					
		高齢者	3					
		子育て世代	18					
12.	点字案内、点字ブロックがない・少ない	障がい者	6					
		高齢者	4					
		子育て世代	16					
13.	エスカレーター・エレベーターの昇り降りがしにくい	障がい者	21					
		高齢者	12					
		子育て世代	17					
14.	バス停やタクシー乗り場・駐車場までの通路に屋根がない	障がい者	63					
		高齢者	54					
		子育て世代	72					
15.	自動車での送迎時に車いすなどを降ろすスペースが少ない	障がい者	32					
		高齢者	25					
		子育て世代	31					
16.	車道と歩道の段差が大きくスロープがない	障がい者	37					
		高齢者	31					
		子育て世代	27					
17.	特に不便はない	障がい者	108					
		高齢者	172					
		子育て世代	100					
18.	その他	障がい者	53					
		高齢者	52					
		子育て世代	67					
無回答		障がい者	95					
		高齢者	176					
		子育て世代	62					
回答者数		障がい者	415					
		高齢者	568					
		子育て世代	484					

2-2. 今後の外出意向

問 あなたがバリアフリー化して欲しいと思う駅についてお聞きます。(あてはまる番号1つだけ)

バリアフリー化して欲しいと思う駅は、「無回答」を除くと、共通して「近鉄伊勢市駅」が約17~30%と最も多く、次いで、「近鉄宇治山田駅」が多くなっている。

子育て世代は、「近鉄五十鈴川駅」「近鉄明野駅」も多くなっている。



問 前問の駅がバリアフリー化された場合、あなたが新たに利用したいと思う“市内”の行き先についてお聞きます。(あてはまる番号すべてに○)

駅がバリアフリー化された際、新たに利用したいと思う市内の行き先は、共通して「伊勢市駅の周辺」が約34~51%と最も多く、次いで、「宇治山田駅の周辺」が多くなっている。

特に、子育て世代は、「伊勢市駅の周辺」が多くなっている。

選択肢	属性	件数	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%
1. 宇治山田駅の周辺	障がい者	109	26.3%						
	高齢者	126	22.2%						
	子育て世代	129	26.7%						
2. 伊勢市駅の周辺	障がい者	173	41.7%						
	高齢者	191	33.6%						
	子育て世代	247	51.0%						
3. 五十鈴川駅の周辺	障がい者	41	9.9%						
	高齢者	40	7.0%						
	子育て世代	56	11.6%						
4. 明野駅の周辺	障がい者	16	3.9%						
	高齢者	11	1.9%						
	子育て世代	26	5.4%						
5. 宮町駅の周辺	障がい者	24	5.8%						
	高齢者	20	3.5%						
	子育て世代	20	4.1%						
6. 小俣駅の周辺	障がい者	15	3.6%						
	高齢者	20	3.5%						
	子育て世代	24	5.0%						
7. 五十鈴ヶ丘駅の周辺	障がい者	10	2.4%						
	高齢者	9	1.6%						
	子育て世代	12	2.5%						
8. 宮川駅の周辺	障がい者	15	3.6%						
	高齢者	12	2.1%						
	子育て世代	22	4.5%						
9. 二見浦駅の周辺	障がい者	19	4.6%						
	高齢者	14	2.5%						
	子育て世代	25	5.2%						
10. 朝熊駅の周辺	障がい者	4	1.0%						
	高齢者	9	1.6%						
	子育て世代	7	1.4%						
11. 山田上口駅の周辺	障がい者	11	2.7%						
	高齢者	11	1.9%						
	子育て世代	6	1.2%						
12. 松下駅の周辺	障がい者	4	1.0%						
	高齢者	1	0.2%						
	子育て世代	4	0.8%						
無回答	障がい者	156	37.6%						
	高齢者	274	48.2%						
	子育て世代	117	24.2%						
回答者数	障がい者	415							
	高齢者	568							
	子育て世代	484							

2-3. バリアフリーのまちづくりに向けた意向

問 普段の外出時に、手助けが必要だと感じたことについてお聞きします。(あてはまる番号すべてに○)

普段外出する際に、手助けが必要だと感じたことは、障がい者は、「見た目では分からない障がいを理解してほしい」が約56%と最も多く、次いで「障がい者の障がい衝動からくる行動（多動、大声、順番を待てない等）を見守ってほしい」が多くなっている。

高齢者は、「手助けが必要だと感じたことはない」が約37%と最も多く、次いで「乗り物などで席を譲ってほしい」「見た目では分からない障がいを理解してほしい」「移動で困っているときに声をかけてほしい」が多くなっている。

子育て世代は、「乳幼児を連れている際には配慮してほしい」が約67%と最も多くなっている。

選択肢	属性	件数	0%	20%	40%	60%	80%
1. 乗り物などで席を譲ってほしい	障がい者	67		16.1%			
	高齢者	103		18.1%			
	子育て世代	59		12.2%			
2. 荷物を持つのを手伝ってほしい	障がい者	34		8.2%			
	高齢者	46		8.1%			
	子育て世代	50		10.3%			
3. エレベーターを譲ってほしい	障がい者	19		4.6%			
	高齢者	14		2.5%			
	子育て世代	38		7.9%			
4. 扉を開けてほしい	障がい者	30		7.2%			
	高齢者	21		3.7%			
	子育て世代	69		14.3%			
5. 移動で困っているときに声をかけてほしい	障がい者	75		18.1%			
	高齢者	71		12.5%			
	子育て世代	73		15.1%			
6. 5以外の場合でも、手助けが必要かどうか気軽に声をかけてほしい	障がい者	54		13.0%			
	高齢者	52		9.2%			
	子育て世代	39		8.1%			
7. 乳幼児を連れている際には配慮してほしい	障がい者	21		5.1%			
	高齢者	37		6.5%			
	子育て世代	326		67.4%			
8. 障がい者の障がい衝動からくる行動(多動、大声、順番を待てない等)を見守ってほしい	障がい者	92		22.2%			
	高齢者	44		7.7%			
	子育て世代	50		10.3%			
9. 見た目では分からない障がいを理解してほしい	障がい者	231		55.7%			
	高齢者	97		17.1%			
	子育て世代	63		13.0%			
10. 手助けが必要だと感じたことはない	障がい者	75		18.1%			
	高齢者	208		36.6%			
	子育て世代	69		14.3%			
11. その他	障がい者	50		12.0%			
	高齢者	69		12.1%			
	子育て世代	34		7.0%			
無回答	障がい者	34		8.2%			
	高齢者	116		20.4%			
	子育て世代	27		5.6%			
回答者数	障がい者	415					
	高齢者	568					
	子育て世代	484					

問 あなたが実際に実施したことがあるバリアフリーに関する行動についてお聞きします。(あてはまる番号すべてに○) (「一般」のみの質問)

実際に実施したことがあるバリアフリーに関する行動について、「扉を開けるのを手伝う」が約62%と最も多く、次いで「乗り物などで席を譲る」「エレベーターを譲る」が多くなっている。

選択肢	件数	0%	20%	40%	60%	80%	100%
1. 乗り物などで席を譲る	233				58.8%		
2. 荷物を持つのを手伝う	56		14.1%				
3. エレベーターを譲る	143			36.1%			
4. 扉を開けるのを手伝う	244				61.6%		
5. 移動で困っているときに声をかける	76		19.2%				
6. 5以外の場所でも、手助けが必要か声をかける	45		11.4%				
7. 特に何もしていない	55		13.9%				
8. その他	18		4.5%				
無回答	11		2.8%				
回答者数	396						

問 バリアフリーのまちづくりのために必要だと思うことについてお聞きします。(あてはまる番号すべてに○)

バリアフリーのまちづくりのために必要だと思うことは、障がい者は、「飲食店や店舗・商店街の意識向上」が約38%と最も多く、次いで「職員や乗務員の対応スキルの向上」「小学校や中学校でのバリアフリー教育」「自転車利用のマナー向上」が多くなっている。

高齢者は、「自転車利用のマナー向上」が約41%と最も多く、次いで「地域での声掛け運動」「飲食店や店舗・商店街の意識向上」「小学校や中学校でのバリアフリー教育」「バリアフリーマップの作成等の情報提供」が多くなっている。

子育て世代と一般は、「小学校や中学校でのバリアフリー教育」が約54~55%と最も多く、次いで「飲食店や店舗・商店街の意識向上」「自転車利用のマナー向上」「職員や乗務員の対応スキルの向上」が多くなっているなど、回答の割合に明確な違いが見られた。

選択肢	属性	件数	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%
1. 小学校や中学校でのバリアフリー教育	障がい者	136	32.8%						
	高齢者	133	23.4%						
	子育て世代	259	53.5%						
	一般	217	54.8%						
2. 地域での声掛け運動	障がい者	93	22.4%						
	高齢者	167	29.4%						
	子育て世代	99	20.5%						
	一般	115	29.0%						
3. 自転車利用のマナー向上	障がい者	135	32.5%						
	高齢者	233	41.0%						
	子育て世代	205	42.4%						
	一般	182	46.0%						
4. 講演会やパンフレット等での啓発活動	障がい者	57	13.7%						
	高齢者	53	9.3%						
	子育て世代	31	6.4%						
	一般	41	10.4%						
5. 高齢者、障がい者、子育て中の方との交流の機会をつくる	障がい者	96	23.1%						
	高齢者	89	15.7%						
	子育て世代	115	23.8%						
	一般	105	26.5%						
6. 飲食店や店舗・商店街の意識向上	障がい者	158	38.1%						
	高齢者	143	25.2%						
	子育て世代	200	41.3%						
	一般	179	45.2%						
7. 職員や乗務員の対応スキルの向上	障がい者	143	34.5%						
	高齢者	112	19.7%						
	子育て世代	165	34.1%						
	一般	182	46.0%						
8. バリアフリーマップの作成等の情報提供	障がい者	102	24.6%						
	高齢者	119	21.0%						
	子育て世代	110	22.7%						
	一般	115	29.0%						
9. 特に必要ない	障がい者	26	6.3%						
	高齢者	53	9.3%						
	子育て世代	13	2.7%						
	一般	9	2.3%						
10. その他	障がい者	31	7.5%						
	高齢者	41	7.2%						
	子育て世代	38	7.9%						
	一般	46	11.6%						
無回答	障がい者	54	13.0%						
	高齢者	93	16.4%						
	子育て世代	25	5.2%						
	一般	14	3.5%						
回答者数	障がい者	415							
	高齢者	568							
	子育て世代	484							
	一般	396							

2-4. 市が実施しているバリアフリーに関する取り組み

問 市が実施しているバリアフリーに関するサポート・支援制度の取り組みのうち、あなたが知っている取り組みについてお聞きします。(あてはまる番号すべてに○)

知っている市のバリアフリーに関するサポート・支援制度は、高齢者以外については「1 つも知らない」が約 41～55%と最も多く、高齢者も「伊勢おもてなしヘルパー神宮参拝サポート」の約 38%に次いで多くなっている。

障がい者は、「障がい者サポーター制度」「伊勢おもてなしヘルパー神宮参拝サポート」が約 30%、子育て世代は、「伊勢おもてなしヘルパー神宮参拝サポート」「認知症サポーター制度」が約 19%、一般は、「伊勢おもてなしヘルパー神宮参拝サポート」が約 36%となっている。

全回答者の約 4 割以上が、市が実施しているバリアフリーに関するサポート・支援制度のうちいずれかを知っているという状況にある。

選択肢	属性	件数	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%
1. 伊勢おもてなしヘルパー神宮参拝サポート	障がい者	113	27.2%						
	高齢者	218	38.4%						
	子育て世代	94	19.4%						
	一般	144	36.4%						
2. 障がい者サポーター制度	障がい者	126	30.4%						
	高齢者	84	14.8%						
	子育て世代	71	14.7%						
	一般	83	21.0%						
3. 子どもたちとつくる「やさしいまち伊勢」支援事業	障がい者	22	5.3%						
	高齢者	30	5.3%						
	子育て世代	41	8.5%						
	一般	27	6.8%						
4. 認知症サポーター制度	障がい者	46	11.1%						
	高齢者	73	12.9%						
	子育て世代	90	18.6%						
	一般	96	24.2%						
5. 1 つも知らない	障がい者	170	41.0%						
	高齢者	210	37.0%						
	子育て世代	268	55.4%						
	一般	177	44.7%						
無回答	障がい者	51	12.3%						
	高齢者	93	16.4%						
	子育て世代	26	5.4%						
	一般	12	3.0%						
回答者数	障がい者	415							
	高齢者	568							
	子育て世代	484							
	一般	396							

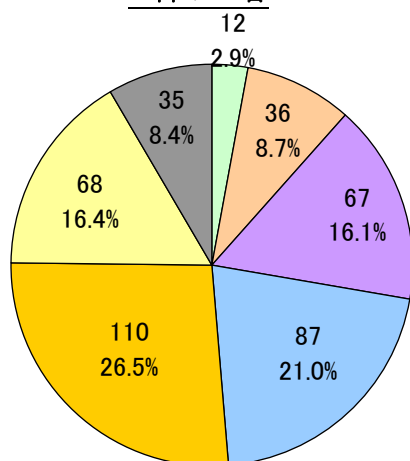
2-5. あなたご自身（宛名のご本人）について

問 あなたの年齢についてお聞きします。（あてはまる番号1つだけ○）

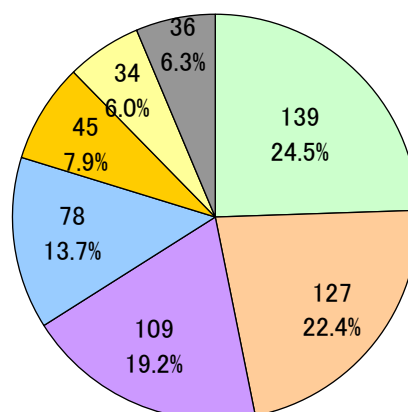
障がい者は「50～59歳」、高齢者は「65～69歳」、子育て世代は「35～39歳」、一般は「40～49歳」が最も多く約25～29%となっている。

その他の年代も、障がい者は40代、高齢者は70代、子育て世代は30代、一般は40代、50代の合計が全体のおよそ半分を占めている。

障がい者



高齢者



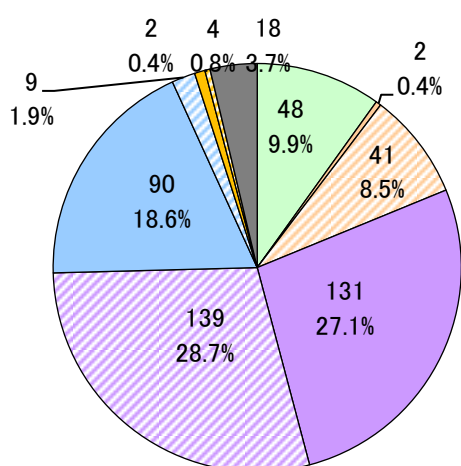
16～19歳
 20～29歳
 30～39歳
 40～49歳

50～59歳
 60～64歳
 無回答

65～69歳
 70～74歳
 75～79歳
 80～84歳

85～89歳
 90歳以上
 無回答

子育て世代

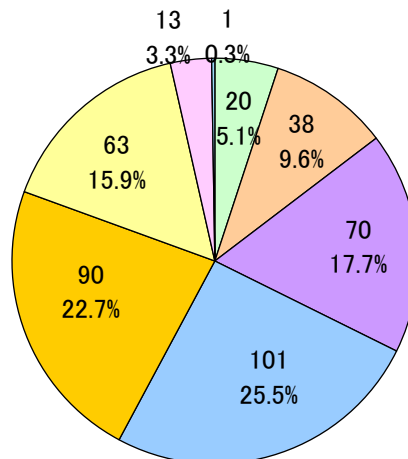


20歳未満
 20～24歳
 25～29歳
 30～34歳

35～39歳
 40～44歳
 45～49歳
 50～59歳

60歳以上
 無回答

一般



16～19歳
 20～29歳
 30～39歳
 40～49歳

50～59歳
 60～64歳
 無回答

問 お住まいの地区（小学校区）についてお聞きます。（あてはまる番号1つだけ○）

住まいの地区（小学校区）は、市全体から回答を得ており、障がい者は「厚生」が約9%と最も多く、高齢者は「有緝」で約8%、一般は「小俣」で約13%であった。

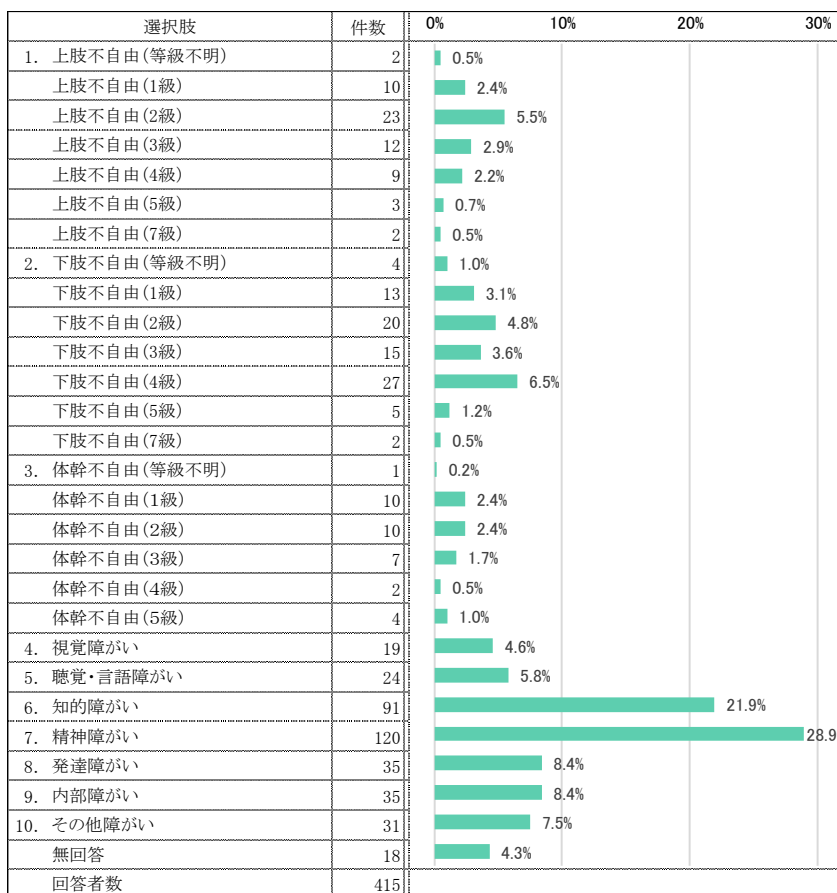
子育て世代は「小俣」で約16%、次いで「明野」が約13%で、この2地区はその他の地域と比較しても割合が高い傾向がある。

選択肢	属性	件数	0%	5%	10%	15%	20%
1. 進修	障がい者	9	2.2%				
	高齢者	17	3.0%				
	子育て世代	8	1.7%				
	一般	7	1.8%				
2. 修道	障がい者	29	7.0%				
	高齢者	31	5.5%				
	子育て世代	19	3.9%				
	一般	32	8.1%				
3. 有緝	障がい者	35	8.4%				
	高齢者	46	8.1%				
	子育て世代	39	8.1%				
	一般	21	5.3%				
4. 早修	障がい者	15	3.6%				
	高齢者	20	3.5%				
	子育て世代	15	3.1%				
	一般	11	2.8%				
5. 中島	障がい者	29	7.0%				
	高齢者	32	5.6%				
	子育て世代	17	3.5%				
	一般	21	5.3%				
6. 明倫	障がい者	19	4.6%				
	高齢者	44	7.8%				
	子育て世代	27	5.6%				
	一般	21	5.3%				
7. 厚生	障がい者	36	8.7%				
	高齢者	44	7.8%				
	子育て世代	27	5.6%				
	一般	24	6.1%				
8. 神社	障がい者	10	2.4%				
	高齢者	16	2.8%				
	子育て世代	25	5.2%				
	一般	24	6.1%				
9. 大湊	障がい者	13	3.1%				
	高齢者	20	3.5%				
	子育て世代	6	1.2%				
	一般	7	1.8%				
10. 佐八	障がい者	2	0.5%				
	高齢者	15	2.6%				
	子育て世代	3	0.6%				
	一般	7	1.8%				
11. 宮山	障がい者	8	1.9%				
	高齢者	7	1.2%				
	子育て世代	21	4.3%				
	一般	18	4.5%				
12. 浜郷	障がい者	28	6.7%				
	高齢者	21	3.7%				
	子育て世代	16	3.3%				
	一般	19	4.8%				

選択肢	属性	件数	0%	5%	10%	15%	20%
13. 四郷	障がい者	12	2.9%				
	高齢者	25	4.4%				
	子育て世代	12	2.5%				
	一般	12	3.0%				
14. 豊浜東	障がい者	3	0.7%				
	高齢者	7	1.2%				
	子育て世代	2	0.4%				
	一般	4	1.0%				
15. 豊浜西	障がい者	11	2.7%				
	高齢者	9	1.6%				
	子育て世代	14	2.9%				
	一般	8	2.0%				
16. 北浜	障がい者	14	3.4%				
	高齢者	18	3.2%				
	子育て世代	8	1.7%				
	一般	8	2.0%				
17. 東大淀	障がい者	8	1.9%				
	高齢者	11	1.9%				
	子育て世代	5	1.0%				
	一般	5	1.3%				
18. 城田	障がい者	14	3.4%				
	高齢者	26	4.6%				
	子育て世代	20	4.1%				
	一般	14	3.5%				
19. 上野	障がい者	5	1.2%				
	高齢者	3	0.5%				
	子育て世代	9	1.9%				
	一般	6	1.5%				
20. 二見浦	障がい者	15	3.6%				
	高齢者	33	5.8%				
	子育て世代	20	4.1%				
	一般	16	4.0%				
21. 小俣	障がい者	24	5.8%				
	高齢者	44	7.8%				
	子育て世代	79	16.3%				
	一般	51	12.9%				
22. 明野	障がい者	10	2.4%				
	高齢者	27	4.8%				
	子育て世代	62	12.8%				
	一般	25	6.3%				
23. 御菌	障がい者	27	6.5%				
	高齢者	29	5.1%				
	子育て世代	26	5.4%				
	一般	33	8.3%				
24. 分からない	障がい者	6	1.4%				
	高齢者	0	0.0%				
	子育て世代	0	0.0%				
	一般	1	0.3%				
無回答	障がい者	33	8.0%				
	高齢者	22	3.9%				
	子育て世代	4	0.8%				
	一般	1	0.3%				
回答者数	障がい者	415					
	高齢者	567					
	子育て世代	484					
	一般	396					

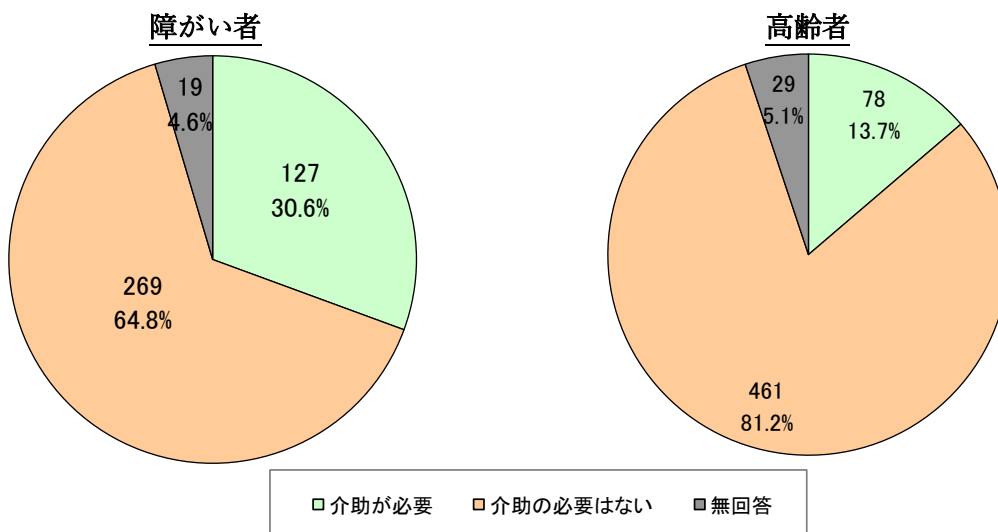
問 あなたの障がいの種類についてお聞きします。(あてはまる番号すべてに○)(肢体不自由の方は等級を()にお書きください。)(障がい者のみ)

障がいの種類について、「精神障がい」が約29%と最も多く、次いで「知的障がい」が多くなっている。



問 外出する場合の介助についてお聞きします。(あてはまる番号1つだけ○)(障がい者・高齢者のみ)

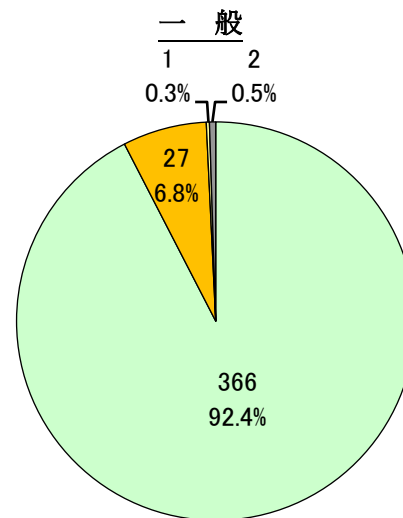
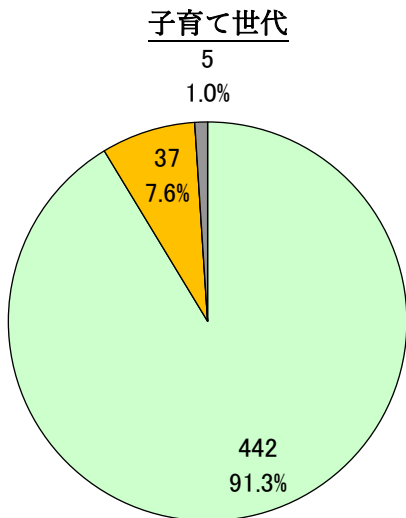
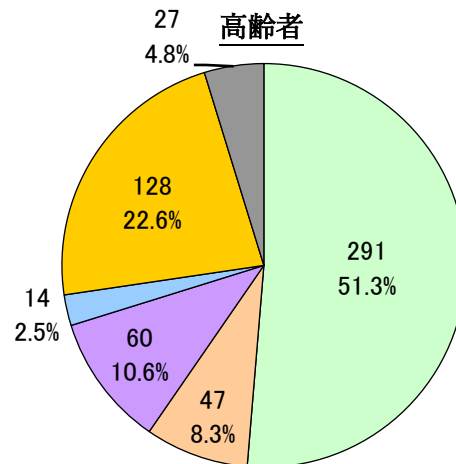
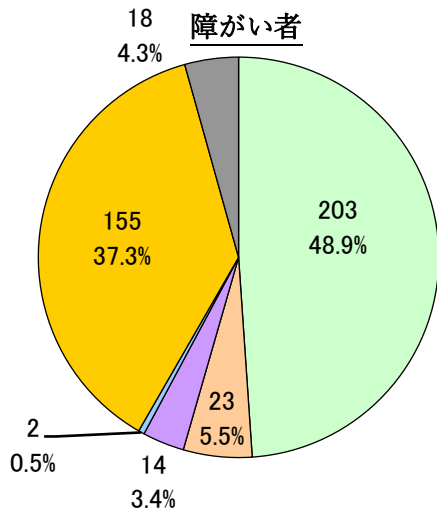
外出する場合の介助について、障がい者は「介助の必要性はない」が約65%、「介助が必要」が約31%となっている。高齢者については、「介助の必要性はない」が約81%、「介助が必要」が約14%となっている。



問 自動車運転免許の有無についてお聞きします。(あてはまる番号1つだけ○)

自動車運転免許の有無は、障がい者と高齢者は「自動車運転免許を持っており、今のところ返納予定はない」が約49～51%と最も多く、次いで、「自動車運転免許も自動二輪免許も持っていない」であり、障がい者は37%、高齢者は約23%であった。

子育て世代と一般は「自動車運転免許を持っており、今のところ返納予定はない」が最も多く約91～92%となっている。



- 自動車運転免許を持っており、今のところ返納予定はない
- 自動車運転免許を返納した
- 自動車運転免許を持っているが、将来的(2～3年以内)に返納する予定
- 自動車運転免許は持っていないが、自動二輪免許を持っている
- 自動車運転免許も自動二輪免許も持っていない
- 無回答

第3編 事業者・関係団体ヒアリング調査

1. 事業者・関係団体ヒアリング調査の概要

移動等円滑化促進方針の策定にあたり、鉄道事業者やバス事業者、タクシー協会などの関係事業者に対して、本市における各交通手段のバリアフリー化対応状況や、交通事業者としての取り組みなどについてヒアリング調査を実施した。

あわせて、市内の高齢者・障がい者団体およびNPO法人を対象に、普段の移動や公共交通を利用する際に不便だと思うことなどについてヒアリング調査を実施した。

表 ヒアリング調査の概要

	対象	日時	主なヒアリング項目
交通事業者	近畿日本鉄道株式会社	2019.8.19 (月)	車両などのバリアフリー対応状況 事業者としての取り組み 今後のバリアフリー関連事業の予定など
	東海旅客鉄道株式会社	2019.8.26 (月)	
	三重交通株式会社	2019.8.26 (月)	
	三重県タクシー協会 伊勢志摩支部※	2019.8.20 (火)	
関係団体	伊勢身体障害者協和会	2019.8.27 (火)	公共施設の利用で不便だと感じたこと これまでの団体の活動や今後の取り組みなど
	小俣町身体障害者協会	2019.9.20 (金)	
	二見身体障害者福祉会	2019.8.27 (火)	
	伊勢市視覚障害者福祉会	2019.8.27 (火)	
	伊勢市聴覚障害者福祉協会	2019.9.20 (金)	
	伊勢市手をつなぐ親の会	2019.8.27 (火)	
	伊勢市肢体不自由児・者父母の会	2019.9.20 (金)	
	伊勢市老人クラブ連合会	2019.8.27 (火)	
NPO 法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター	2019.8.19 (月)	観光地で不便だと感じたこと これまでの団体の活動や今後の取り組みなど	

※「株式会社三交タクシー」へヒアリング

2. 事業者ヒアリング

2-1. 鉄道事業者ヒアリング（近鉄）

市内における近鉄線各駅のバリアフリー対応状況として、伊勢市駅では公共交通移動等円滑化基準省令に基づく全ての機能や施設がバリアフリー化対応されている。また、宇治山田駅は一部スロープの勾配が基準に対応していないが、それ以外のトイレやエレベーターなどはバリアフリー基準に対応している。その他の駅は無人駅や乗降客数の少ない駅が多く、一部バリアフリーに対応していない駅がある。五十鈴川駅については、2019年度（令和元年度）から2020年度（令和2年度）にかけてバリアフリー化工事を行っている。

事業者独自の取り組みとして、車いす利用者や視覚障がい者への声掛けや誘導、駅係員への教育などを実施している。一方、事業を進める上での課題として、エレベーター等の維持管理費や更新費、整備費用面（労務費や材料費等の高騰）など金銭的な課題や整備困難駅（用地問題、自治体の支援が受けられないなど）がある。

表 鉄道事業者としての取り組み状況（近鉄：令和元年8月時点）

ヒアリング項目	内容
独自の取り組み	<ul style="list-style-type: none">・車いす利用者や視覚障がい者への声掛け、誘導・駅係員への教育・ホーム内方線は、1日あたりの平均乗降客数3,000人未満の駅についても駅の状況に応じて整備を検討
今後のバリアフリーに関する取り組み予定	<ul style="list-style-type: none">・2019～2020年度（令和元～2年度）に五十鈴川駅のバリアフリー化工事実施
事業を進める上での課題	<ul style="list-style-type: none">・エレベーター等の維持管理費、更新費など・整備費用面（労務費や材料費等の高騰）・整備困難駅（用地問題、自治体の支援が受けられないなど）
利用者から頂いた意見や要望	<ul style="list-style-type: none">・段差解消に関する要望が多数・エレベーターだけでなく、エスカレーターやスロープ設置に関する要望が多数・誘導チャイムやホーム柵の設置などに関する要望・鉄道車両における車いすスペースの設置に関する要望
意向や目標など	<ul style="list-style-type: none">・2020年度（令和2年度）までに1日あたりの平均乗降客数3,000人以上の駅のバリアフリー化を進めているが、その他3,000人未満の駅についても自治体等からの要望があれば検討を行う

※市内の各駅におけるバリアフリー対応状況については、1-33ページに記載。

2-2. 鉄道事業者ヒアリング（JR）

市内における JR 線各駅のバリアフリー対応状況として、伊勢市駅は公共交通移動等円滑化基準省令に基づく全ての機能や施設がバリアフリー化対応されている。この他、山田上り駅でも移動等円滑化された経路が確保されているが、その他の駅は無人駅や乗降客数の少ない駅が多く、バリアフリーに対応していない駅もある。

また、事業者独自の取り組みとして、車両の各箇所に手すりや点字表示、音声案内装置などを設置しており、乗降口付近の段差や優先席などは視認性の確保を実施している。事業を進める上での課題として、整備費用や維持更新に関する費用の増加が挙げられる。

表 鉄道事業者としての取り組み状況（JR：令和元年8月時点）

ヒアリング項目	内容
独自の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅係員への教育 ・ 車両においても各箇所に手すりや点字表示、音声案内装置などを設置 ・ 乗降口付近の段差や優先席の視認性の確保
今後のバリアフリーに関する取り組み予定	<ul style="list-style-type: none"> ・ バリアフリー法に基づいた設備の整備や改良を実施
事業を進める上での課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整備費用や維持更新に関する費用
利用者から頂いた意見や要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 忘れ物をした際の駅員対応に関するお礼 ・ 大雨でダイヤが乱れている際の駅員対応に関するお礼 ・ エレベーターのない駅での、駅員による対応に関するお礼
意向や目標など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日あたりの乗降客数 3,000 人以上の駅を対象に順次バリアフリー化を実施している ・ 視覚障害者誘導用ブロック、内方線ブロックは伊勢市内を含む全ての駅で整備完了

※市内の各駅におけるバリアフリー対応状況については、1-33 ページに記載。

2-3. バス事業者

伊勢営業所管轄内におけるバス車両のバリアフリー対応状況として、公共交通移動等円滑化基準省令に適合した車両を 60 両有しており、全車両（96 両）の内、約 3 分の 2 がバリアフリー基準に適合している。この内、ノンステップバスは 32 両、ワンステップは 25 両である。一方、公共交通移動等円滑化基準省令に適合していない車両は 36 両であり、基準適用除外認定車両が 2 両、その他車両は 34 両である。

事業者独自の取り組みとしては、運転手による補助の実施や視覚障がい者を見かけた際のアナウンス等の実施、障がい者や高齢者の対応マニュアルを用意している。一方、事業を進める上での課題として、全てのバスがノンステップバスやバリアフリーに対応しているわけではないので、時間や路線によってはバリアフリーに対応していないバスになることがある。

表 車両のバリアフリー対応状況（令和元年 8 月時点）

公共交通移動等円滑化基準省令に適合した車両	
合計	60 両
ノンステップバス	32 両
ワンステップバス	25 両
その他の車両（車種：リエッセ）	3 両
公共交通移動等円滑化基準省令に適合していない車両	
合計	36 両
基準適用除外認定車両	2 両
その他車両	34 両

表 バス事業者としての取り組み状況（令和元年 8 月時点）

ヒアリング項目	内容
独自の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運転手による補助を実施 ・視覚障がい者を見かけた際にはアナウンス等を実施 ・障がい者、高齢者の対応マニュアルを用意
今後のバリアフリーに関する取り組み予定	<ul style="list-style-type: none"> ・2019 年度（令和元年度）にノンステップバスを 3 台導入予定（伊勢営業所管内）
事業を進める上での課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全てのバスがノンステップバスやバリアフリーに対応しているわけではないので、時間や路線によってはバリアフリーに対応していないバスになることがある ・乗り場の改善は道路との兼ね合いもあるので、利用者の声が出てからの対応・検討になってしまう
利用者から頂いた意見や要望	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント時に車いす利用者のために、車いす対応バスを素早く用意できたことに対するお礼
意向や目標など	<ul style="list-style-type: none"> ・バス車両と乗り場の改善を優先的に進めていく

2-4. タクシー協会（三交タクシー）

タクシー事業者の福祉対応車両の状況として、三交タクシーでは計32台（普通車両：24台、ジャンボタクシー：8台）の車両を有しているが、福祉対応は行われていないとのことである。（ヒアリング時点）

事業者独自の取り組みとして、問い合わせに応じて車いすの貸出を行っており、車いす利用者に対しては運転手が車いすの格納の補助や障がい者、高齢者の介助を実施している。

また、タクシー事業者およびタクシー協会として、バリアフリー化に向けた取り組みは特になく状況である。（ヒアリング時点）

表 タクシー事業者およびタクシー協会としての取り組み（令和元年8月時点）

ヒアリング項目	内容
福祉対応車両の状況	・なし（普通車両：24台、ジャンボタクシー：8台）
事業者独自の取り組み	・車いすを2台保有しており問い合わせに応じて貸出 ・車いす利用者は運転手が車いすの格納や障がい者、高齢者の介助を実施
バリアフリー化に向けた取り組み	・特になし

3. 関係団体ヒアリング

市内の障がい者および高齢者団体および NPO 法人を対象に、普段の移動や公共交通を利用する際に不便だと思うことなどについてヒアリング調査を実施し、その結果を以下の表にまとめた。

表 関係団体ヒアリングのまとめ (1/3)

項目		まとめ
肢体・身体障がい者団体	駅・鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターの位置案内や手すりの有無・位置、駐車場からの経路など移動経路に関する点や、トイレなどの設備面など。 ・電車とホームの段差や隙間など(つまづくなど危険を感じる)。 ・車両内の車いす用スペースのそばに介助者の席がないことや、せまい通路の車いすでの移動など。 ・駅へ向かう際の踏切の隙間が大きく、車いすや杖が溝にはまる。 ・電車の乗車待ちをしている際に一般の人からジロジロ見られる、ホーム上で転んでも誰も声をかけてくれないなどの一般利用者の気遣い・マナー。
	バス停・バス	<ul style="list-style-type: none"> ・上屋やベンチがないため、バス待ち時が不便なこと。 ・車いす対応のバスにいつ乗れるかが分からないこと。
	タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシー乗車時や車内のコミュニケーション(目的地の伝達など)を行う際に、時折、対応の悪いドライバーの人がいる。 ・夜間の配車待ち時間が長い。
	市内のバリアフリー対策	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の凸凹や段差が大きい、また通路幅がせまいので歩きにくい。 ・歩道や誘導用ブロック上に違法駐車があるなど一般利用者の駐車マナーが悪い。
視覚障がい者団体	駅・鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・移動経路の分かりづらさ、タッチ式・センサー式のトイレや券売機(障がいの種別によっては利用が難しい)など。 ・誘導用ブロックによる案内の分かりづらさ、普段と乗車位置が異なる電車での乗り降りが難しい。 ・多機能トイレを休憩室代わりに使う人がいるなどマナーに関する問題など。 ・転落防止に関する対策が不十分である。
	バス停・バス	<ul style="list-style-type: none"> ・駅からバス停へ向かう所に誘導用ブロックがない場所があること、誘導用ブロックによる乗降位置の分かりにくさなどがある。
	タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシーが利用できる時間に合わせて行動しないといけない。
	市内のバリアフリー対策	<ul style="list-style-type: none"> ・誘導用ブロックの整備が途中で終わっている箇所や、車道よりも歩道が高くなっているマウントアップの歩道が多く、勾配になっている箇所が多い。

表 関係団体ヒアリングのまとめ (2/3)

項目		まとめ
聴覚障がい者団体	駅・鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・切符を買うために駅員を呼びだす必要があることや、エレベーターにモニターがないため、緊急時のコミュニケーションが取れない。 ・電車が遅れた際の情報提供や伝達手段、車内での情報を入手する手段がない。
	バス停・バス	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停やバス車両内で情報を得る手段がないため、遅延情報や今どこを走っているかなどの情報が分からない。 ・雨風をしのぐための上屋などがバス停にない。
	タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・運転手相手にコミュニケーションをとることに苦労する。
	市内のバリアフリー対策	<ul style="list-style-type: none"> ・手話を知っている人、できる人が少ない点、コンビニなどにサインボードを作って配布したが、利用しているコンビニが少ないなど。
知的障がい者父母の会	駅・鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターの有無や、エレベーターの場所の分かりやすさなど移動上の問題や、トイレ・時刻表や運賃表の高さなどの施設面など。 ・トイレの中に車いす用のトイレがあると、他の人と一緒に並ぶ必要がある。 ・改札口の幅や混雑時に知的障がい者が利用しやすい専用レーン整備の有無、乗降位置の明示など。 ・車両内の車いす用のスペースに、車いすをロックするような装置がほしい。 ・駅員等に気軽に相談できる方法や環境が少ない。
	バス停・バス	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停で、バスの時間や乗り継ぎ、乗り換えの手段、時間などが分かりにくいこと、バス停周辺は安全に待機できるスペースが少ない。 ・車いす対応のバスにいつ乗れるかが分からない。
	タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の配車が少なく、車いす対応のタクシーが少ない。
	市内のバリアフリー対策	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道の街灯や植え込みなど歩道上の障害物、車が乗り入れるために傾斜になっているなど。

表 関係団体ヒアリングのまとめ (3/3)

項目		まとめ
高齢者団体	駅・鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターの有無や階段の幅・間隔など。 ・無人駅での乗車券の対応や、誘導用ブロックの歩きづらさ、階段の幅など。 ・電車とホームの段差や隙間、目的地への最短ルートなどに関する情報提供手段など。
	バス停・バス	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停の分かりやすさや上屋の有無、バス運行に関する情報提供が少ない。 ・バス車両に乗る際の段差、目的地までの情報提供が少ない。
	タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・市内バスがない夜間などにタクシーが使えず、利用できたとしても時間がかかる。
	市内のバリアフリー対策	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすで観光に来た高齢者でも分かりやすいような案内が必要である。 ・レンガで整備された歩道は、木の根や老朽化の凸凹で転倒しやすい。また、杖がレンガの溝に挟まりやすい。
伊勢志摩バリアフリーツアーセンター	市内の主要な観光地や観光施設	<ul style="list-style-type: none"> ・多機能トイレは複数の障がいに対応できるよう機能が備わっているが、設置数が少ないため、異なった障がいを持った複数の方が一度に利用できない。 (例：高齢者の方が多機能トイレを使用中はオストメイトを利用したい方は利用できない、など) ・異性介助の視覚障がい者と LGBT 用のトイレも必要になってくる（多機能トイレを男女どちらでも利用できるようにすることが必要）。 ・思いやり駐車場や車いす対応駐車場がキャパオーバーになってきている。 ・以前に整備した箇所の補修や現行の法令基準の引き上げ改修などの対応が曖昧になっている。
	観光地周辺の移動	<ul style="list-style-type: none"> ・案内が分かりにくい上、距離が分からないためどの程度進む必要があるのかが分かりにくい。 ・道路を整備しても違法駐車や店舗の入り口の段差など依然としてバリアが存在している。
	市内のバリアフリー対策	<ul style="list-style-type: none"> ・悪天候などで当初の予定がダメになった場合の代替案の提供（リロード）が不足している。 ・トイレや駐車場が利用できなかった場合にどこを利用すればいいのかなどの情報提供・伝達手段が重要である。

第4編 移動等円滑化促進地区の抽出

1. 移動等円滑化促進地区の要件

1-1. 伊勢市の移動等円滑化促進地区の選定基準

(1) 基本的な考え方

移動等円滑化促進地区（案）の選定においては、市内の鉄道駅周辺地区を対象に評価を実施した。これは、バリアフリーマスタープランが、生活関連施設相互間を通常徒歩で移動することを前提としたものであり、市内に立地している大規模店舗や総合病院等で、駅から離れた位置に立地している施設については、その施設から他の生活関連施設への徒歩による移動が見込まれないため、今回は評価対象外とした。

(2) 評価指標の設定

移動等円滑化促進地区の選定にあたり設定した、バリアフリー法に基づく3要件それぞれに対する評価指標と、各評価指標における移動等円滑化促進地区として抽出するための基準値およびその考え方は表1のとおりである。

また、各評価指標における評価点は、表2のとおりである。

表1 評価指標ごとの基準値の考え方

評価指標	基準値	基準値の考え方	基本方針での位置づけ ※3
(ア) 障がいのある人などが主に利用する駅周辺地域	障がいのある人などが主に利用する割合が 1.5% 以上※2	移動等円滑化促進地区を抽出するにあたり、ある一定数の市民が駅周辺地域を利用しているかどうかを判断する（2,000人※1以上の市民が駅周辺を利用するかどうか）	① （法第二条第一項第二十号の二イ）
(イ) 生活関連施設	生活関連施設の数が 3箇所 以上	移動等円滑化の促進に関する基本方針を参考に、生活関連施設が3箇所以上なければ特別特定建築物も3箇所以上所在しないため	
(ウ) 鉄道駅の1日あたりの平均乗降客数	1日あたりの鉄道駅の平均乗降客数が 2,000人/日 以上	交通バリアフリー基本構想時の旅客施設の抽出基準	② （法第二条第一項第二十号の二ロ）
(エ) バス停の1日あたりの平均乗降客数	1日あたりのバス停の平均乗降客数が 30人/日 以上	市内全バス停の平均値より（平均値：32.7人/日）	
(オ) 都市マスタープランの位置づけ	拠点 としての位置づけ	—	③ （法第二条第一項第二十号の二ハ）
(カ) 観光客入込数	徒歩圏内に 観光施設 が存在	—	

※1：生活関連施設（旅客施設）の抽出基準で、駅周辺を2,000人以上が利用していなければ、少なくとも駅やバス停の利用状況は低いと想定

※2：2,000人/130,000人（平成27年国勢調査の人口）＝約1.5%を基に設定

※3：①～③は「移動等円滑化の促進に関する基本方針（平成31年4月1日時点）」の該当要件（ ）内は高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律における該当要件

表2 評価指標ごとの評価点

評価指標	評価点		
(ア) 障がいのある人などが主に利用する駅周辺地域	1位：3点	2位：2点	3位：1点
(イ) 生活関連施設※	1位：3点	2位：2点	3位：1点
(ウ) 鉄道駅の1日あたりの平均乗降客数	1位：3点	2位：2点	3位：1点
(エ) バス停の1日あたりの平均乗降客数	1位：3点	2位：2点	3位：1点
(オ) 都市マスタープランの位置づけ	都市交流拠点：3点 地域交流拠点：2点 その他交流拠点：1点		
(カ) 観光客入込数	1位：3点	2位：2点	3位：1点

※評価対象の駅に評価対象以外の旅客施設が含まれている場合は、候補数から除く。
(評価対象の駅とその周辺の生活関連施設の立地状況で評価するため)

2. 評価指標による評価

2-1. 生活関連施設があり、かつ、それらの間の移動が通常徒歩で行われる地区（要件1）

(1) 障がいのある人などが主に利用する駅周辺地域

2019年9月に実施した市民アンケートの結果を踏まえ、主によく利用する駅周辺地域を整理した結果、伊勢市駅が21.5%と最も多く、次いで宇治山田駅の9.0%、宮川駅の6.6%となっており、宮町駅、小俣駅、明野駅などが約3~5%であった。

評価基準に基づき、障がいのある人など^{※1}が主に利用する駅周辺地域として評価を行った結果、最も利用率が高い伊勢市駅を「3」点、次いで多い宇治山田駅を「2」点、3番目に多い宮川駅を「1」点とした。

表 駅周辺の利用率と評価結果

【JR】	五十鈴ヶ丘駅	宮川駅	二見浦駅	山田上口駅	松下駅
基準値	×	○	×	×	×
割合 (%)	1.3	6.6	1.3	1.1	0.1
点数	—	1	—	—	—

【近鉄】	伊勢市駅	宇治山田駅	明野駅	宮町駅	小俣駅	朝熊駅
基準値	○	○	○	○	○	×
割合 (%)	21.5	9.0	2.7	4.8	4.6	0.6
点数	3	2	—	—	—	—

※1：2019年9月実施の市民アンケート結果（障がい者、高齢者、子育て世代、一般）

※2：上記回答の他、駅周辺以外（32.7%）、無回答（6.7%）含む

(2) 生活関連施設

評価基準に基づき、駅から徒歩圏内（駅起点に半径1.4kmの円内）における生活関連施設[※]を整理した結果、最も多い59施設の伊勢市駅を「3」点、次いで多い54施設の宇治山田駅を「2」点、3番目に多い30施設の宮町駅を「1」点とした。

また、この他には、二見浦駅、山田上口駅などでも約20施設が駅周辺に立地している。

表 生活関連施設候補数と評価結果

【JR】	五十鈴ヶ丘駅	宮川駅	二見浦駅	山田上口駅	松下駅
基準値	○	○	○	○	○
施設数	6	8	21	19	3
点数	—	—	—	—	—

【近鉄】	伊勢市駅	宇治山田駅	明野駅	宮町駅	小俣駅	朝熊駅
基準値	○	○	○	○	○	×
施設数	59	54	7	30	7	2
点数	3	2	—	1	—	—

※評価対象の駅に評価対象以外の旅客施設が含まれている場合は、候補数から除く

2-2. 生活関連施設および生活関連経路についてバリアフリー化の促進が特に必要な地区（要件 2）

(1) 鉄道駅の1日あたりの平均乗降客数

評価基準に基づき、1日あたりの平均乗降客数を整理した結果、約10,200人/日[※]と最も多い伊勢市駅を「3」点、次いで約8,700人/日の宇治山田駅を「2」点、約2,100人/日の明野駅を「1」点とした。
 （※JRと近鉄両駅の合計）

表 鉄道駅1日あたりの平均乗降客数と評価結果

【JR】	五十鈴ヶ丘駅	宮川駅	二見浦駅	山田上口駅	松下駅
基準値	×	×	×	×	×
乗降客数 (人/日)	536	530	496	218	60
点数	—	—	—	—	—

【近鉄】	伊勢市駅	宇治山田駅	明野駅	宮町駅	小俣駅	朝熊駅
基準値	○	○	○	×	×	×
乗降客数 (人/日)	10,187	8,650	2,061	1,227	746	132
点数	3	2	1	—	—	—

資料：JR東海、近畿日本鉄道
 JR：提供資料の1日平均乗降客数を2倍して算出
 近鉄：交通量調査（平成30.11.13）

(2) バス停の1日あたりの平均乗降客数

評価基準に基づき、駅から移動可能な高齢者徒歩圏[※]（駅起点に半径500m）におけるバス停の1日あたりの平均乗降客数を整理した結果、約1,800人/日と最も多い宇治山田駅前バス停を「3」点、次いで約220人/日の二見浦表参道バス停を「1」点とした。

表 バス停1日あたりの平均乗降客数と評価結果

【JR】	五十鈴ヶ丘駅	宮川駅	二見浦駅	山田上口駅	松下駅
基準値	○	×	○	○	×
バス停名	山商口	小俣総合支所前	二見浦表参道	宮町	松下広場
乗降客数 (人/日)	40.6	14.1	220.3	98.0	2.3
点数	—	—	1	—	—

【近鉄】	伊勢市駅	宇治山田駅	明野駅	宮町駅	小俣駅	朝熊駅
基準値	○	○	×	○	×	×
バス停名	宇治山田駅前	宇治山田駅前	近鉄明野駅前	宮町	下小俣公民館	朝熊町
乗降客数 (人/日)	1846.8	1846.8	12.4	98.0	1.8	7.7
点数	3	3	—	—	—	—

※国土交通省「都市構造の評価に関するハンドブック」参照

2-3. バリアフリー化を促進することが、総合的な都市機能の増進を図る上で有効かつ適切な地区 (要件3)

(1) 都市マスタープランの位置づけ

評価基準に基づき、都市マスタープランの位置づけを整理した結果、都市交流拠点に位置づけている宇治山田駅と伊勢市駅を「3」点、地域交流拠点に位置づけている小俣駅と宮川駅、二見浦駅を「2」点、市民交流拠点に位置づけている五十鈴ヶ丘駅を「1」点とした。

表 都市マスタープランの位置づけと評価結果

【JR】	五十鈴ヶ丘駅	宮川駅	二見浦駅	山田上口駅	松下駅
基準値	○	○	○	×	×
拠点	市民交流 拠点	地域交流 拠点	地域交流 拠点	—	—
点数	1	2	2	—	—

【近鉄】	伊勢市駅	宇治山田駅	明野駅	宮町駅	小俣駅	朝熊駅
基準値	○	○	×	×	○	×
拠点	都市交流 拠点	都市交流 拠点	—	—	地域交流 拠点	—
点数	3	3	—	—	2	—

(2) 観光客入込数

評価基準に基づき、駅周辺に位置する観光客入込数を整理した結果、最も多い神宮（外宮）のアクセス駅である宇治山田駅と伊勢市駅を「3」点、次いで二見興玉神社のアクセス駅である二見浦駅を「1」点とした。

表 観光入込客数と評価結果

【JR】	五十鈴ヶ丘駅	宮川駅	二見浦駅	山田上口駅	松下駅
基準値	×	×	○	×	○
アクセス駅	—	—	二見興玉神社	—	民話の駅 蘇民
点数	—	—	1	—	—

【近鉄】	伊勢市駅	宇治山田駅	明野駅	宮町駅	小俣駅	朝熊駅
基準値	○	○	×	×	×	×
アクセス駅	神宮 (外宮)	神宮 (外宮)	—	—	—	—
点数	3	3	—	—	—	—

※宮町駅は駅から徒歩圏内（駅起点に半径1.4kmの円内）に神宮（外宮）を有するが、神宮公式ホームページおよび伊勢市観光協会ホームページでは、外宮のアクセス駅として「宇治山田駅」「伊勢市駅」を表記しているため、アクセス駅として評価対象外とした。

3. 評価の整理と移動等円滑化促進地区（案）の抽出

3-1. 基準値の整理

各評価指標での結果を踏まえ、移動等円滑化促進地区（案）として抽出するための基準を満たしているかどうかの判断を行った結果は、以下の表のとおりであり、要件1～3全てを満たしている駅は「伊勢市駅」「宇治山田駅」「二見浦駅」であった。

【要件の評価基準】

- ◎：各要件の評価指標の内、2つ基準値を満たしている
- ：各要件の評価指標の内、1つでも基準値を満たしている
- ×：各要件の評価指標の内、1つも基準値を満たしていない

表 各要件の評価結果

【JR】	五十鈴ヶ丘駅	宮川駅	二見浦駅	山田山口駅	松下駅
要件1	○	◎	○	○	○
評価指標（ア）	×	○	×	×	×
評価指標（イ）	○	○	○	○	○
要件2	○	×	○	○	×
評価指標（ウ）	×	×	×	×	×
評価指標（エ）	○	×	○	○	×
要件3	○	○	◎	×	○
評価指標（オ）	○	○	○	×	×
評価指標（カ）	×	×	○	×	○

【近鉄】	伊勢市駅	宇治山田駅	明野駅	宮町駅	小俣駅	朝熊駅
要件1	◎	◎	◎	◎	◎	×
評価指標（ア）	○	○	○	○	○	×
評価指標（イ）	○	○	○	○	○	×
要件2	◎	◎	○	○	×	×
評価指標（ウ）	○	○	○	×	×	×
評価指標（エ）	○	○	×	○	×	×
要件3	◎	◎	×	×	○	×
評価指標（オ）	○	○	×	×	○	×
評価指標（カ）	○	○	×	×	×	×

3-2. 移動等円滑化促進地区の選定

評価指標に基づく評価を行った結果は、以下の表のとおりであった。

表 移動等円滑化促進地区（案）の選定結果

	五十鈴ヶ丘駅	宮川駅	二見浦駅	山田上り口駅	松下駅	伊勢市駅	宇治山田駅	明野駅	宮町駅	小俣駅	朝熊駅
【要件1】 生活関連施設があり、かつ、それらの間の移動が通常徒歩で行われる地区（基準値を達成した評価指標の数）	1	2	1	1	1	2	2	2	2	2	0
評価指標（ア）の評価点	—	1	—	—	—	3	2	—	—	—	—
評価指標（イ）の評価点	—	—	—	—	—	3	2	—	1	—	—
【要件2】 生活関連施設および生活関連経路についてバリアフリー化の促進が特に必要な地区（要件を達成した〇の数）	1	0	1	1	0	2	2	1	1	0	0
評価指標（ウ）の評価点	—	—	—	—	—	3	2	1	—	—	—
評価指標（エ）の評価点	—	—	1	—	—	3	3	—	—	—	—
【要件3】 バリアフリー化を促進することが、総合的な都市機能の増進を図る上で有効かつ適切な地区（要件を達成した〇の数）	1	1	2	0	1	2	2	0	0	1	0
評価指標（オ）の評価点	1	2	2	—	—	3	3	—	—	2	—
評価指標（カ）の評価点	—	—	1	—	—	3	3	—	—	—	—
基準値を達成した評価指標数	3	3	4	2	2	6	6	3	3	3	0
評価点の合計	1	3	4	0	0	18	15	1	1	2	0
総合順位	6位	4位	3位	9位	9位	1位	2位	6位	6位	5位	11位

第5編 まち歩き（現地確認）の実施

1. まち歩き（現地確認）の実施

1-1. まち歩き（現地確認）の概要

本マスタープランの「2. 移動等円滑化促進地区の抽出」において選定した「伊勢市駅・宇治山田駅周辺地区」、「二見浦駅周辺地区」について、現地確認を行うためにまち歩きを実施した。まち歩きには、本マスタープラン策定協議会の委員、アドバイザー（市職員）、事務局、随行者が参加し、まち歩きをする中で『移動が不便だと思ふ』『移動する際に危険だ』と思ふ箇所について確認を行った。

また、まち歩きでは駅周辺の道路の他、伊勢市駅、宇治山田駅および二見浦駅についても、鉄道事業者立ち合いのもと現地確認を行った。

表 まち歩き（現地確認）の実施概要

	伊勢市駅・宇治山田駅周辺地区
日時	12月19日（木） 9:30～
参加者	合計：32名 （策定協議会メンバー：14名、随行者：4名、アドバイザー：2名、事務局：10名）
場所	ルート 1-1：伊勢市駅周辺 ルート 1-2：宇治山田駅周辺
確認項目	『移動が不便だと思ふ』 『移動する際に危険だ』と思ふ箇所

	二見浦駅周辺地区
日時	12月23日（月） 13:30～
参加者	合計：31名 （策定協議会メンバー：14名、随行者：5名、アドバイザー：2名、事務局：11名）
場所	ルート 2-1：二見浦駅周辺 ルート 2-2：二見興玉神社周辺
確認項目	『移動が不便だと思ふ』 『移動する際に危険だ』と思ふ箇所

表 主要な確認事項

項目		チェックポイント
歩道	舗装	ひび割れ、凹凸、勾配など
	幅員	
	段差	車いすが利用しにくい段差の有無
	視覚障害者 誘導用ブロック	誘導用ブロックの有無
	排水施設	側溝のフタの有無、グレーチングの目の細かさ、隙間やがたつき
	その他	駐車場出入口の安全性、 障害物の有無（駐車車両、駐輪、看板、花壇、植栽、車止めなど）
交通安全 施設	信号機	音響式信号機の有無
	横断歩道	横断歩道前後の段差や勾配
	その他	

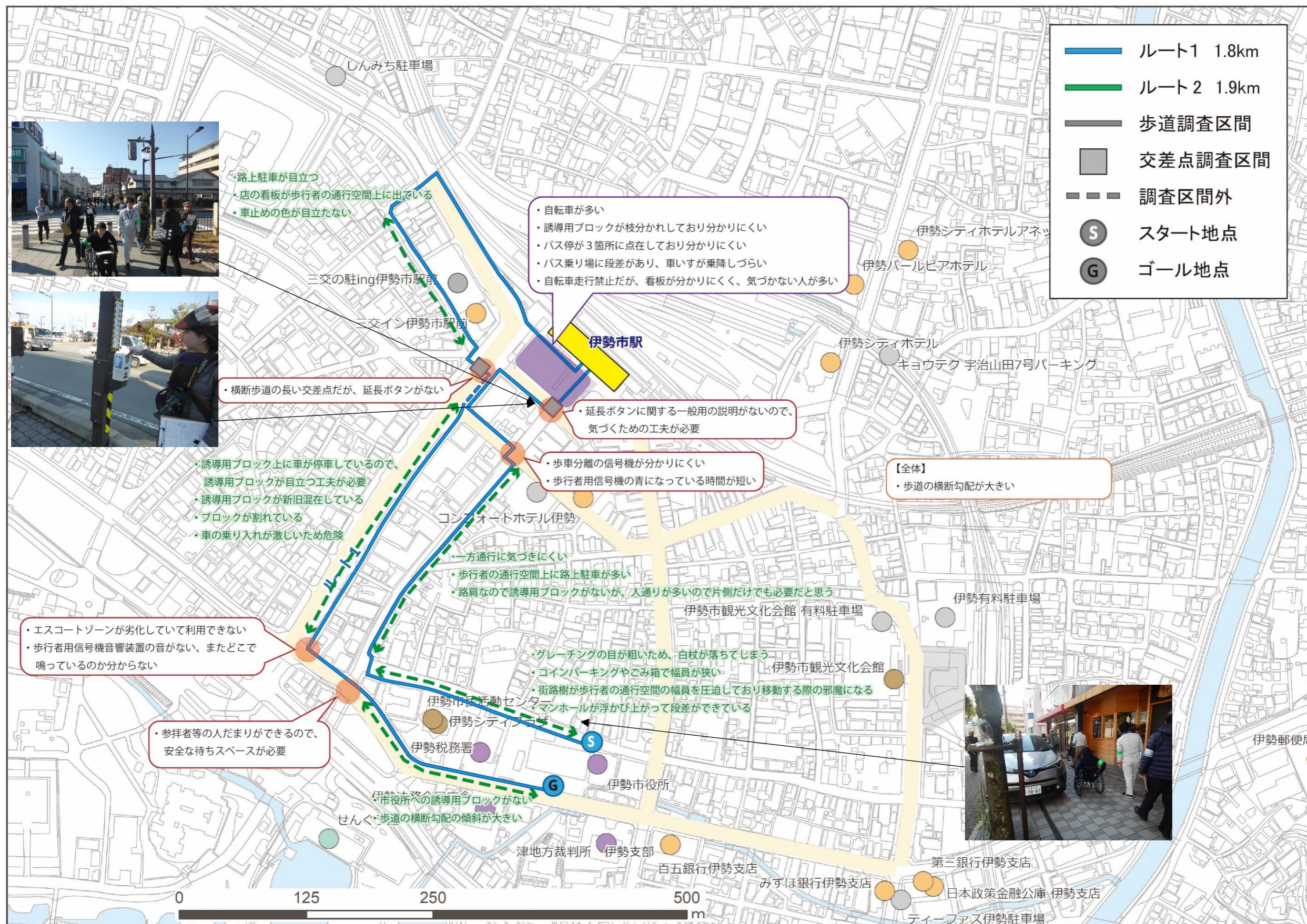
2. まち歩き（現地確認）の結果

2-1. 伊勢市駅・宇治山田駅周辺地区

(1) 伊勢市駅周辺【ルート1-1】

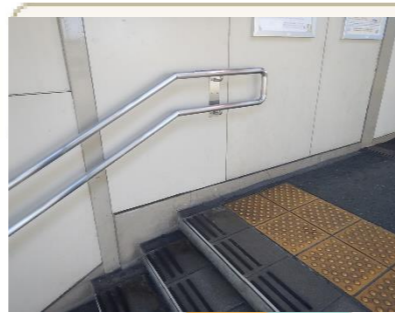
伊勢市駅周辺におけるまち歩き（現地確認）時の調査結果を下記に整理する。

2019年（令和元年）12月19日時点



伊勢市駅

1F・2F



ホーム → JR線ホーム 3分
社線の最寄駅改札口までの標準時分を表示しています。

B 班ゴール
(→南口まで移動)

【階段】
・階段の終点手前から手すりがあり、使い勝手が良い

・通路が長い（歩きたくなる工夫が欲しい）

スタート

【エレベーター】
・エレベーターの表記を JR と同じく 1F、2F の表記で統一させるべき（現在：連絡通路とホーム）

【トイレ】
・トイレの位置が奥まっけて気づきにくい

近鉄名古屋・京都・大阪難波方面

・通路の矢印が小さくて薄い

【階段】
・手すりに点字がある
・両端の段端にシール有（中央部にはない）

・内方線がない
・ホームの傾斜が大きい

【エレベーター】
・エレベーターの位置が裏手で分かりにくい

【トイレ】
・多機能トイレのドアにビニールカーテンなどがあると助かる（視覚障がい者などは開け閉めが大変）
・男性トイレの手すりが手前に欲しい



【料金表】
・券売機が車いすからみえづらい（高さ、角度の問題）

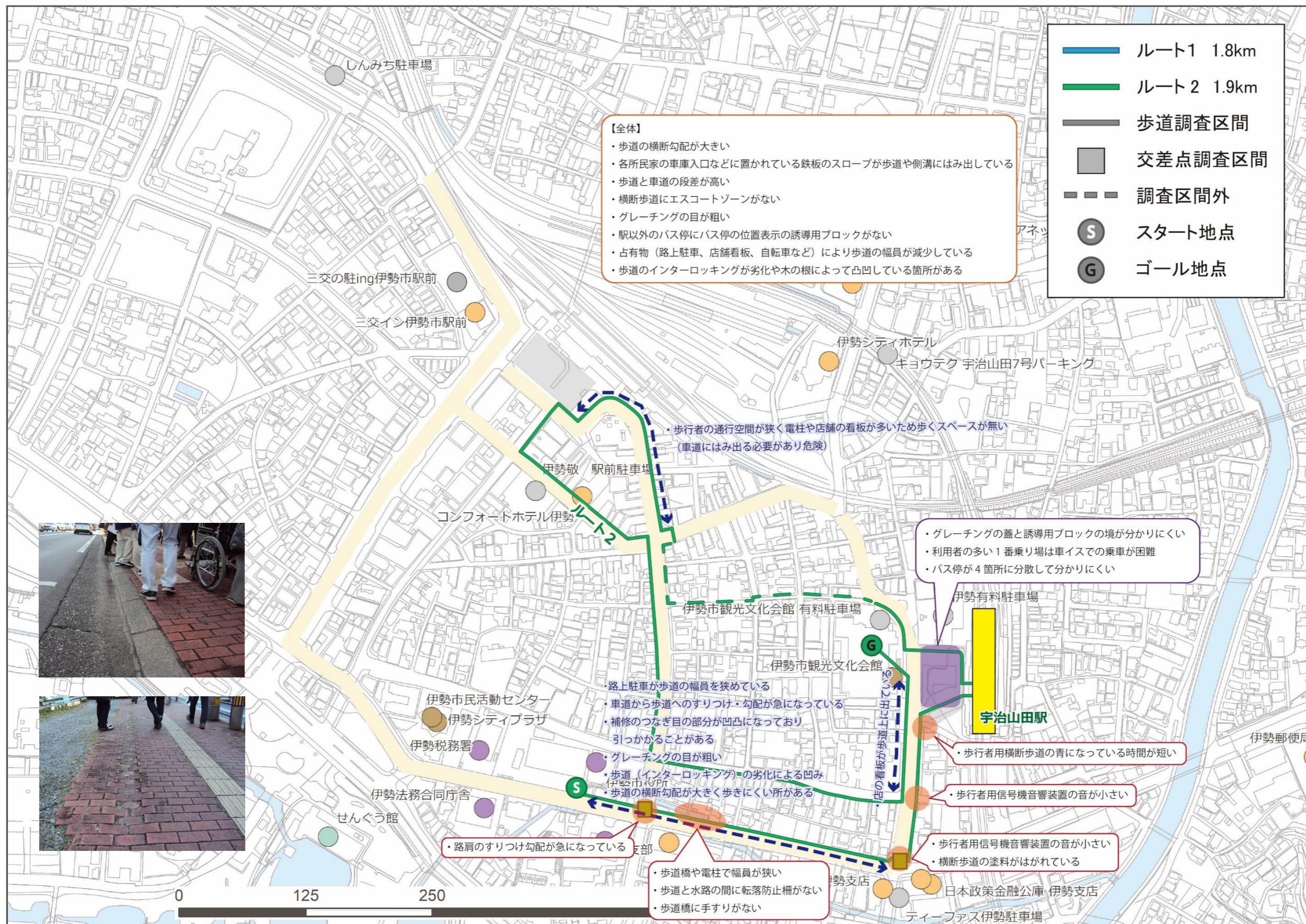
A 班ゴール



(2) 宇治山田駅周辺【ルート1-2】

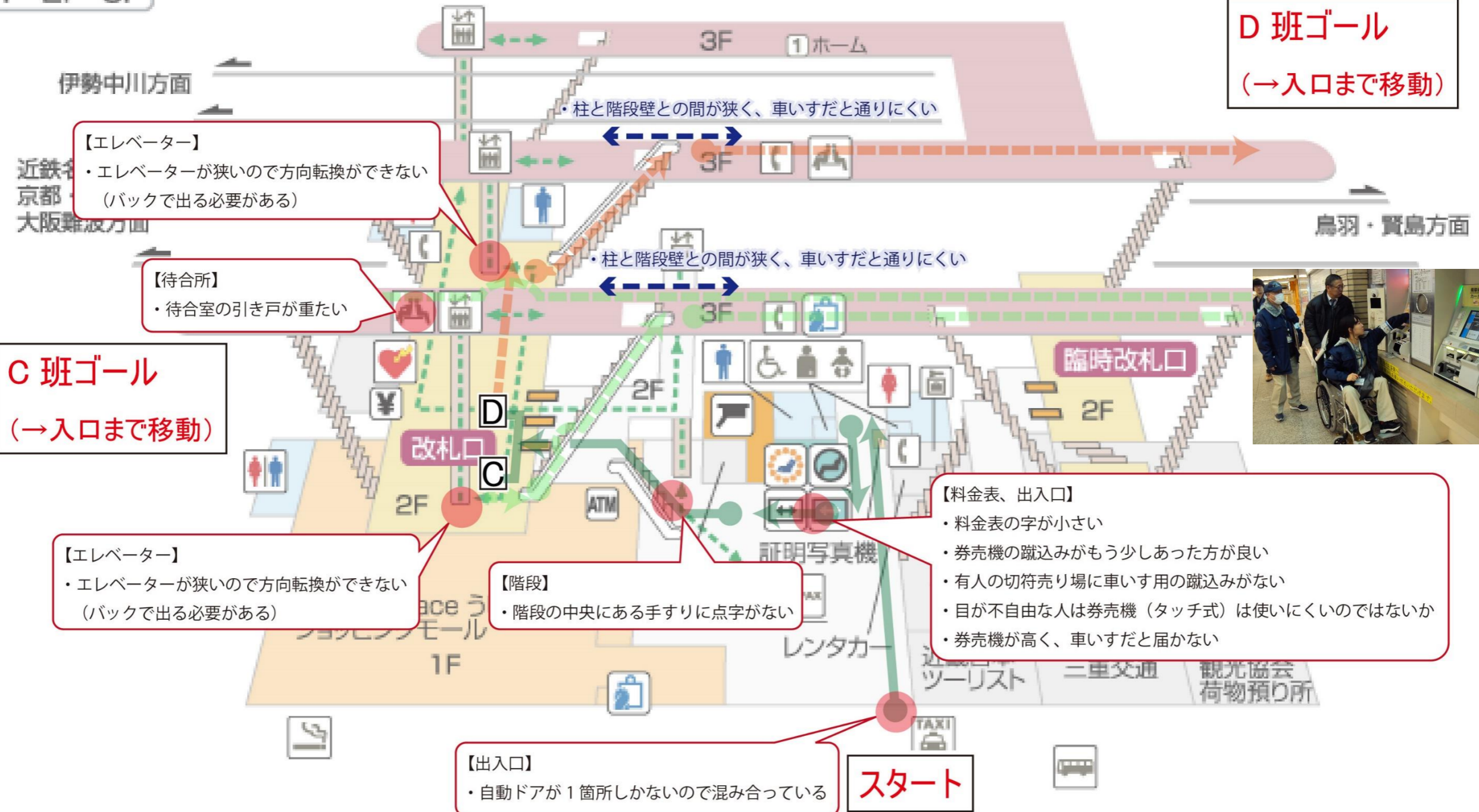
宇治山田駅周辺におけるまち歩き（現地確認）時の調査結果を下記に整理する。

2019年（令和元年）12月19日時点



宇治山田駅

1F・2F・3F



(3) 意見まとめ（伊勢市駅・宇治山田駅周辺地区）

表 伊勢市駅・宇治山田駅周辺地区のまち歩き（現地確認）における意見まとめ

項目		まとめ
伊勢市駅周辺	移動経路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅から市役所などの公共施設、外宮などの主要な観光施設までの経路上に視覚障害者誘導用ブロックが整備されておらず、植え込みやグレーチングの目、歩道の劣化による段差など移動上障害物となるものが存在している。 ・ 歩道上に店舗の看板や路上駐車が多く、視覚障害者誘導用ブロックや、歩道を塞ぐバリアとなっている。 ・ 公共交通を利用する際に、駅までの経路やバス停の位置などが煩雑になっており分かりにくい状況である。 ・ 横断歩道の長い交差点であって延長ボタンがない箇所や横断歩道の線が消えている箇所、エスコートゾーンのない交差点が多いなど、歩行者が安心して横断できる交通安全施設が十分ではない状況である。
	駅舎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通移動等円滑化基準省令に基づきバリアフリー化されている駅ではあるが、障がい者や車いす利用者などにとって一部使用しづらい箇所が散見される。
宇治山田駅周辺	移動経路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅から市役所などの公共施設までの経路上に視覚障害者誘導用ブロックが整備されているが、色や形が混在し、また、歩道上に店舗の看板や路上駐車が多いため、視覚障害者誘導用ブロックや歩道を塞ぐバリアとなっている。 ・ グレーチングの目や電柱、歩道橋、歩道の劣化による段差など移動上障害物となるものが存在している。 ・ 歩道上のバス停で位置表示の誘導用ブロックがないバス停が多く、駅前広場ではバス停の位置が複雑になっているなど、公共交通に関する情報が分かりにくい状況である。 ・ 横断歩道の線が薄い箇所や歩行者横断を示す音が小さい箇所、エスコートゾーンのない交差点が多いなど、歩行者が安心して横断できる交通安全施設が十分ではない状況である。
	駅舎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通移動等円滑化基準省令に基づきバリアフリー化されている駅ではあるが、障がい者や車いす利用者などにとって一部使用しづらい箇所が散見される。

2-2. 二見浦駅周辺地区

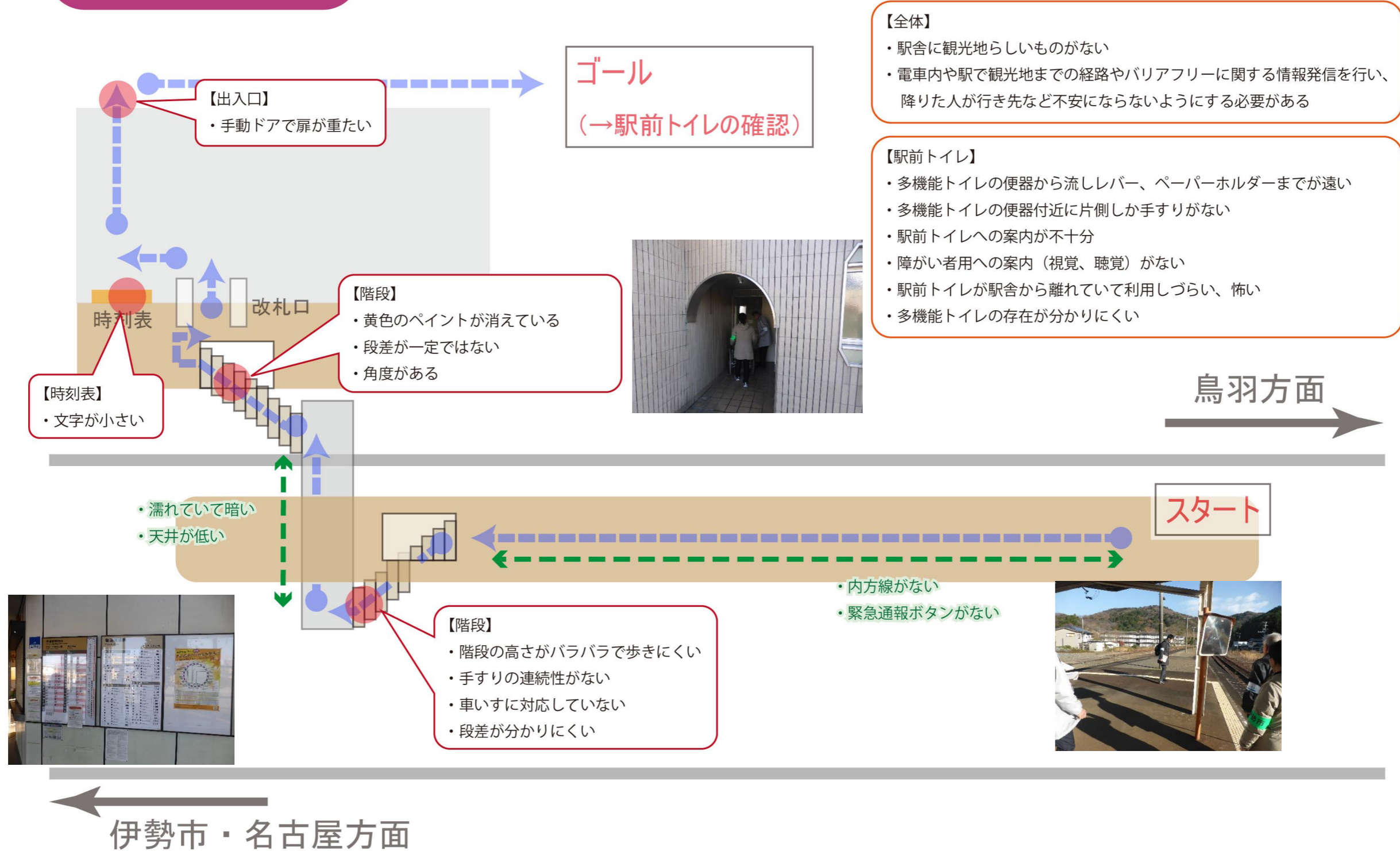
(1) 二見浦駅周辺【ルート2-1】

二見浦駅周辺におけるまち歩き（現地確認）時の調査結果を下記に整理する。

2019年（令和元年）12月23日時点



二見浦駅



(2) 二見興玉神社周辺【ルート2-2】

二見興玉神社周辺におけるまち歩き（現地確認）時の調査結果を下記に整理する。

2019年（令和元年）12月23日時点



(3) 意見まとめ（二見浦駅周辺地区）

表 二見浦駅周辺地区のまち歩き（現地確認）における意見まとめ

項目		まとめ
二見浦駅周辺	移動経路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅から総合支所などの公共施設、二見浦公園などの主要な観光施設までの経路上に視覚障害者誘導用ブロックが整備されておらず、植え込みやグレーチングの目、歩道の劣化による段差など移動上障害物となるものが存在している。 ・ 歩道上の路上駐車が多く、視覚障害者誘導用ブロックや歩道を塞ぐバリアとなっている。 ・ 公共交通を利用する際に、駅までの経路（歩行者動線）やバス停の位置などが分かりにくい状況である。 ・ 横断歩道の線が薄い箇所や一時停止線がない交差点など、歩行者が安心して横断できる交通安全施設が十分ではない状況である。
	駅舎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅舎やトイレが十分にバリアフリー化されておらず、障がい者や車いすの方の利用が困難な状況である。 ・ 駅から観光地までの経路など、観光地としてのバリアフリーに関する情報提供が不足している。
二見興玉神社周辺	移動経路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光施設同士を結ぶ経路や総合支所までの経路上に視覚障害者誘導用ブロックが整備されておらず、植え込みやグレーチングの目、歩道の劣化による段差など移動上障害物となるものが存在している。 ・ 歩道上に店舗の看板や路上駐車が多く、視覚障害者誘導用ブロックや歩道を塞ぐバリアとなっている。 ・ 歩行者の通行空間と自動車の通行空間が混在しており、歩行者が安心して通行できる歩行者空間の確保が十分ではない状況である。 ・ 市内でも主要な観光施設である二見興玉神社は、玉砂利のため車いすでの移動が困難であり、それに関するバリアフリー情報や移動ルートの提供などが不足している。
	総合支所	<ul style="list-style-type: none"> ・ エレベーターの位置が分からない。 ・ 総合庁舎の出入口の音声案内装置がない。

